

みやぎ食の安全安心消費者モニター アンケート調査結果報告

アンケート対象者 「みやぎ食の安全安心消費者モニター」 1,007人(平成30年6月28日現在)

アンケート回答者数 522人(回収率51.8%)

調査実施期間 平成30年6月下旬～7月下旬

アンケート回答者属性

男女構成

男性	女性	不明
127	394	1

同居未成年家族の有無

あり	なし	不明
139	378	5

新規・継続の別

新規	継続	不明
49	437	36

年代別内訳

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
11	20	65	114	149	125	37	1

宮城県の居住期間

5年未満	5～9年	10～19年	20年以上	不明
10	14	38	459	1

年代別アンケート回収率

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
25.0%	29.9%	51.2%	58.2%	55.4%	58.7%	44.0%

※「同居している未成年家族の有無」は、以下「未成年家族の有無」と記載する。

※端数を四捨五入しているため、割合(%)の合計とその内訳が一致しないことがある。

※複数回答の設問のグラフについては、各属性の回答者数を分母とした割合(%)で示した。

※男女別、年代別、未成年家族の有無別の有意差(統計上、偶然であるとは考えにくい差)については、有意水準5%で有意差検定を行っている。なお、複数回答の設問では選択肢毎に有意差検定を行った。

※「新規・継続の別」は、新規モニター(今回初めてアンケート対象者となった方)と継続モニター(新規モニター以外)の人数である。

《結果概要》

I 食の安全安心について(問1～問8)

回答者の61.6%が食の安全安心全般について何らかの不安を感じており、昨年度と比べて5.0ポイント増加した(問1)。最も不安を感じる項目は「輸入食品の安全性」となり、次いで「食品添加物」と「環境汚染物質」の順となった(問2)。

安全で安心できる食品を供給するために重要だが十分に行われていないと認識されている取組は、「流通・販売段階における安全性の確保」が最もポイントが高かった。(問4)。

食の安全安心に係る信頼関係を確立するために重要だが十分に行われていないと認識されている取組は、「生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進」が最もポイントが高かった。(問5)

県からの食の安全安心に関する情報提供について、「十分」または「おおむね十分」とした回答者は50.9%であり、昨年度と比べて5.7ポイント上昇した(問7)。

II 食と放射性物質について(問9～問17)

食品中の放射性物質を気にしている回答者は69.7%となり、昨年度と比べ0.5ポイント増加した(問10)。気にしている理由は、「人体への影響が不安」が最も多く、昨年度と同様の傾向であった。

現在不安に感じている食品は、昨年と同じく「きのこ・山菜類」が最もポイントが高く、次いで「魚介類」、「野菜」の順となった(問13)。

放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報については、昨年よりやや多い46.7%の回答者が確認している一方、52.6%の回答者は確認していない(問14)。また、放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報の確認方法は、回答が多い順に「新聞」、「店頭表示」、「テレビ・ラジオ」となった(問15)。

一度基準値を超えた後に基準値以下あるいは不検出となった食品については、「不検出なら食べる」が50.0%で最も回答者が多かった(昨年度より9.2ポイント減)。「検出されていても基準値以下なら食べる」の回答者は昨年度より7.1ポイント増加し、22.7%となった。(問16)

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取組としては、「検査状況や結果のわかりやすい公表」、「県産農産物の安全性のPR」、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」の順で要望が高く、継続した情報提供が求められている(問17)。

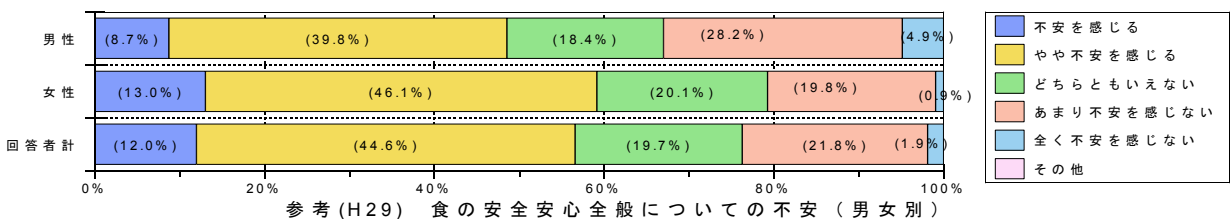
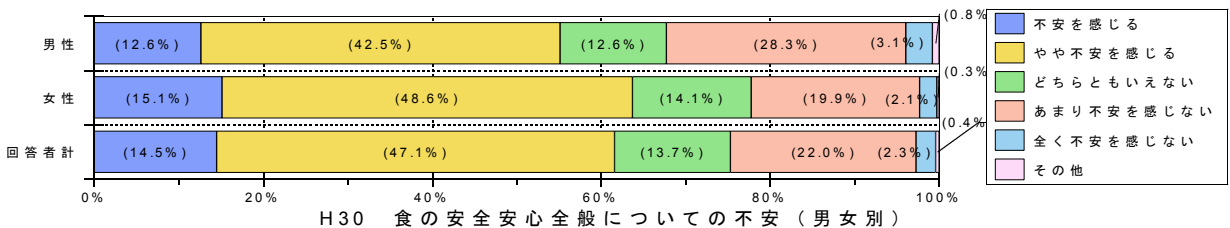
I 食の安全安心について

問1 食の安全安心全般について、不安を感じていますか。(単一回答)

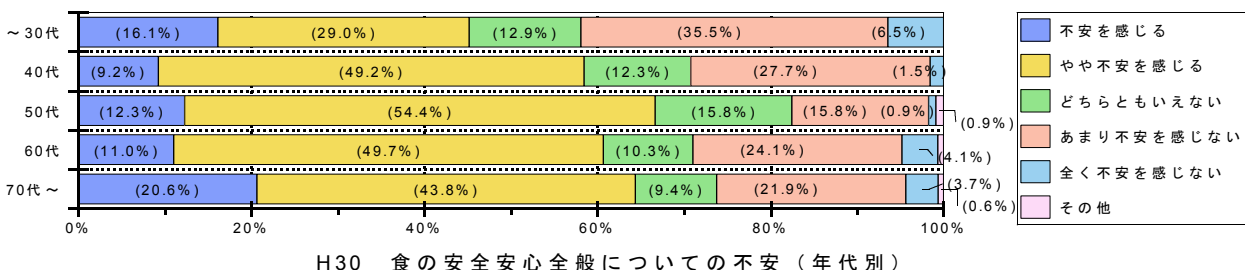
1 不安を感じる	2 やや不安を感じる	3 どちらともいえない
4 あまり不安を感じない	5 全く不安を感じない	6 その他

食の安全安心全般について、「不安を感じる」(14.5%)、「やや不安を感じる」(47.1%)を合わせて61.6%の回答者が不安を感じており、昨年度と比べ5.0ポイント増加している。

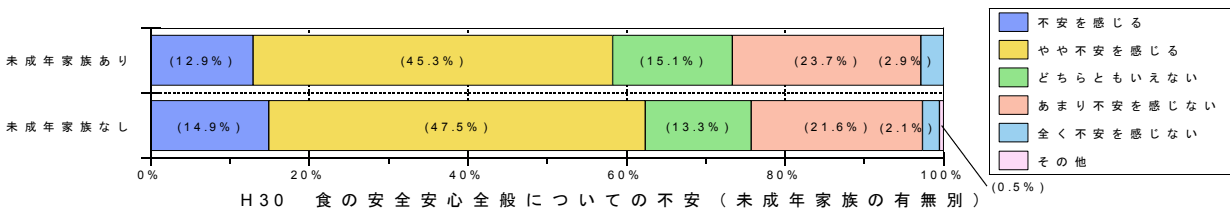
男女別では、有意差は見られない。



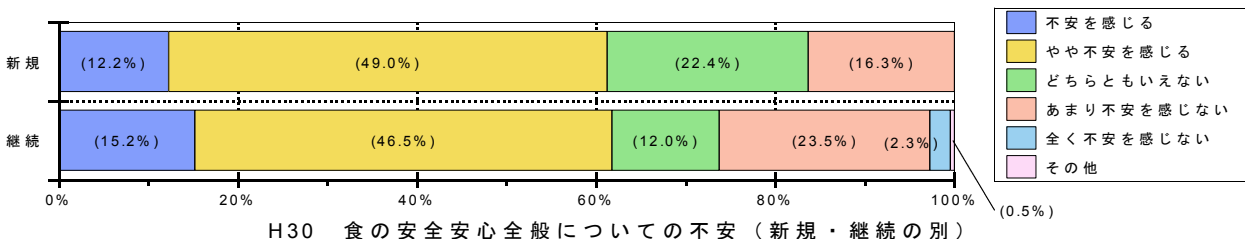
年代別では「不安を感じる」の項目で有意差が見られ、70代以上の回答割合が高い。また、「やや不安を感じる」の項目では、30代以下の回答割合が低い。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。



問2 食の安全性について、下記の項目各々に、どのくらい不安を感じていますか。
(5段階評価)

A 食品添加物について	B 残留抗生物質について	C 環境汚染物質について
D 残留農薬について	E 異物混入について	F アレルギー物質について
G 食中毒について	H 家畜伝染病について	I 遺伝子組換え食品について
J 産地表示の信頼性	K 期限表示の信頼性	L 栄養成分表示の信頼性
M 放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性	O 輸入食品の安全性	P その他
N 健康食品の安全性		

評価	1 強く感じている	2 やや感じている	3 どちらともいえない
	4 あまり感じていない	5 全く感じていない	

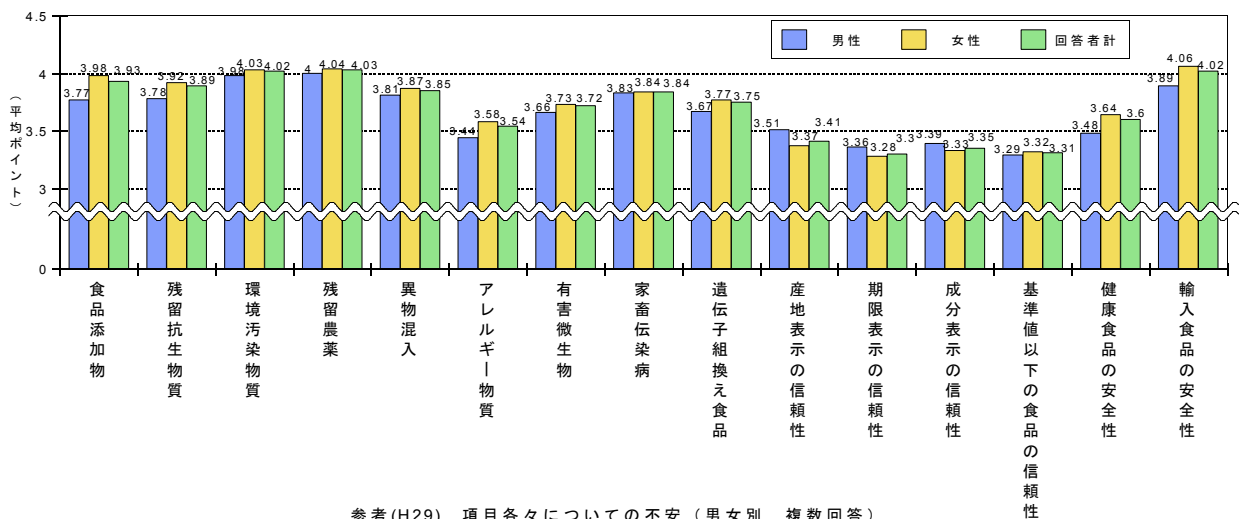
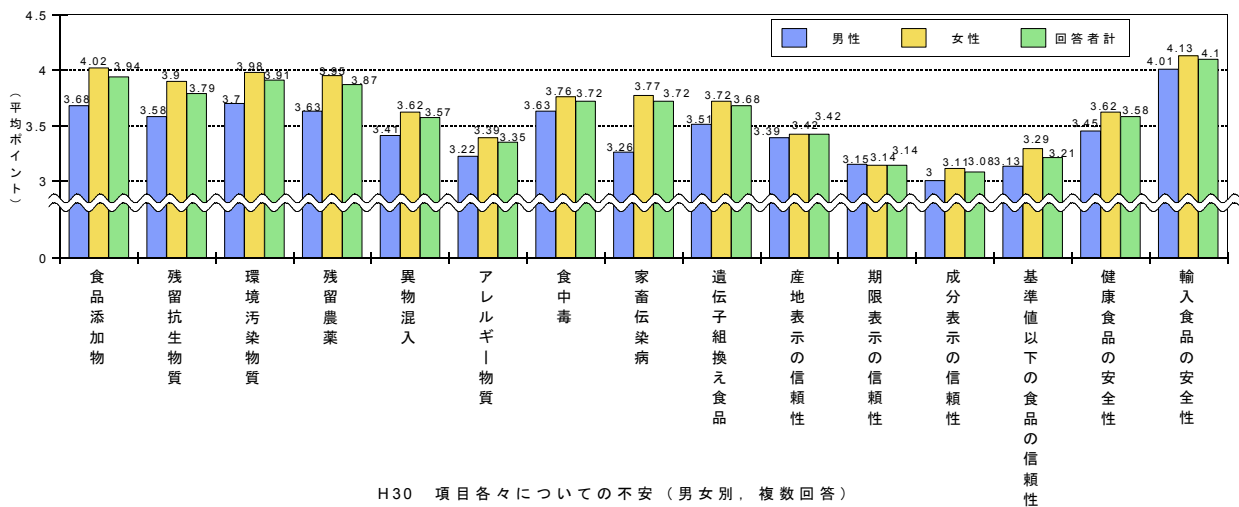
不安を感じている項目としては、「輸入食品の安全性」(4.10点)が最も高く、次いで「食品添加物」(3.94点)、「環境汚染物質」(3.91点)、「残留農薬」(3.87点)、「残留抗生物質」(3.79点)の順である。

昨年度のアンケート調査結果では、「残留農薬」、「環境汚染物質」・「輸入食品の安全性」、「食品添加物」、「残留抗生物質」の順であり、今年度もおおむね同様の傾向となっている。

平成24年度から項目に加えた「放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性」に対する不安(3.21点)については、昨年度(3.31点)よりわずかに低下した。

※昨年度「有害微生物」としていた項目を、「食中毒」に変更した。

※平均ポイントは、「強く感じている」を5点、「やや感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じていない」を2点、「全く感じていない」を1点とし、平均したもの。

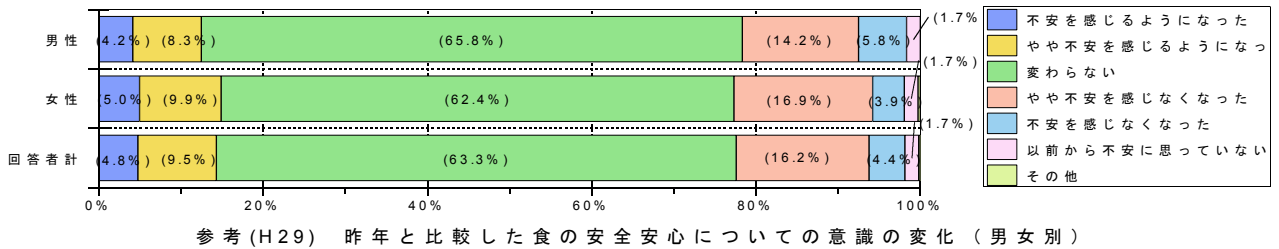
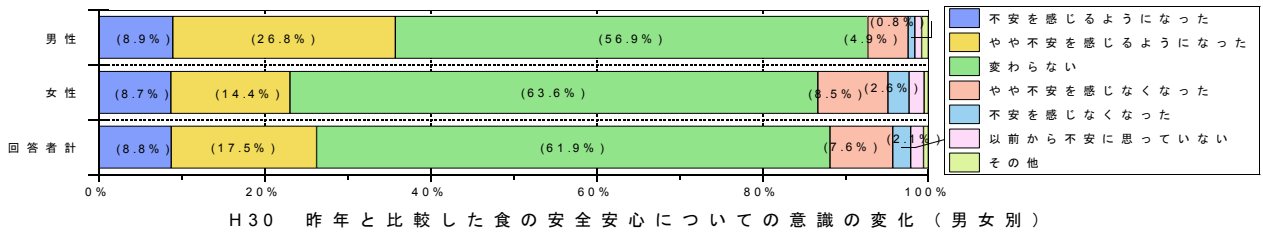


問3 昨年と比較して、食の安全安心について意識の変化はありましたか。(単一回答)

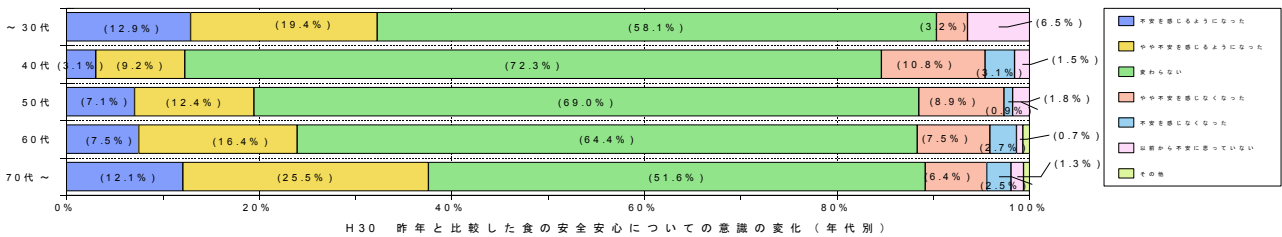
- | | | |
|----------------|------------------|-------|
| 1 不安を感じるようになった | 2 やや不安を感じるようになった | |
| 3 変わらない | 4 やや不安を感じなくなった | |
| 5 不安を感じなくなった | 6 以前から不安に思っていない | 7 その他 |

「不安を感じるようになった」(8.8%)、「やや不安を感じるようになった」(17.5%)を合わせた26.3%が何らかの不安を感じるようになっており、昨年度に比べ12.0ポイント増加した。また、「やや不安を感じなくなった」(7.6%)は昨年度に比べ8.6ポイント低下し、「不安を感じなくなった」(2.1%)は昨年度に比べ2.3ポイント低下した。

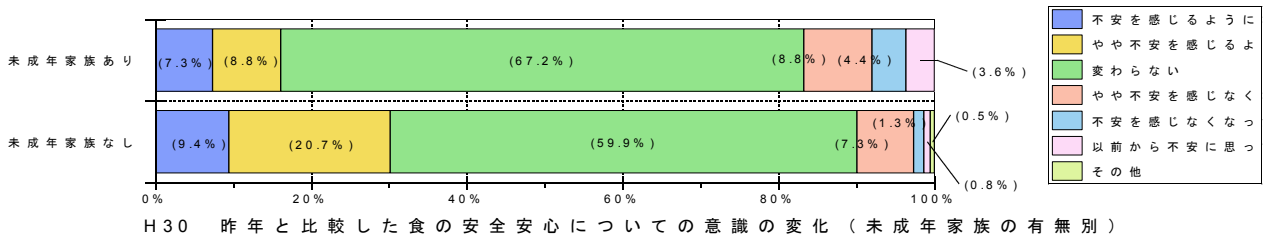
男女別では、「やや不安を感じるようになった」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。



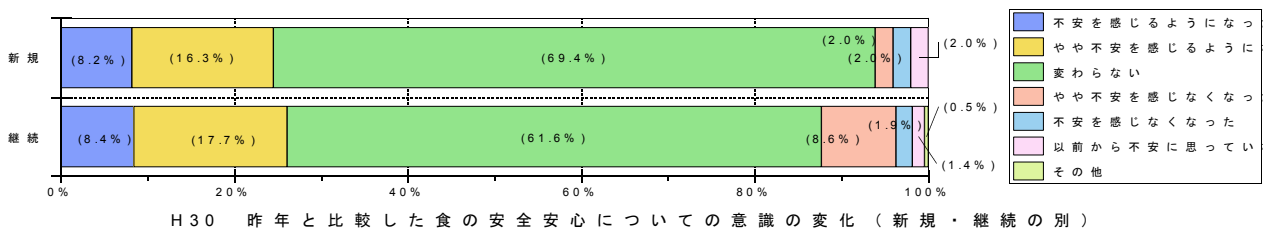
年代別では、有意差は見られない。



未成年家族の有無別では有意差が見られ、「やや不安を感じるようになった」の項目では、「未成年家族なし」の回答割合が高く、「不安を感じなくなった」の項目では、「未成年家族あり」の回答割合が高い。



新規・継続の別では、有意差は見られない。



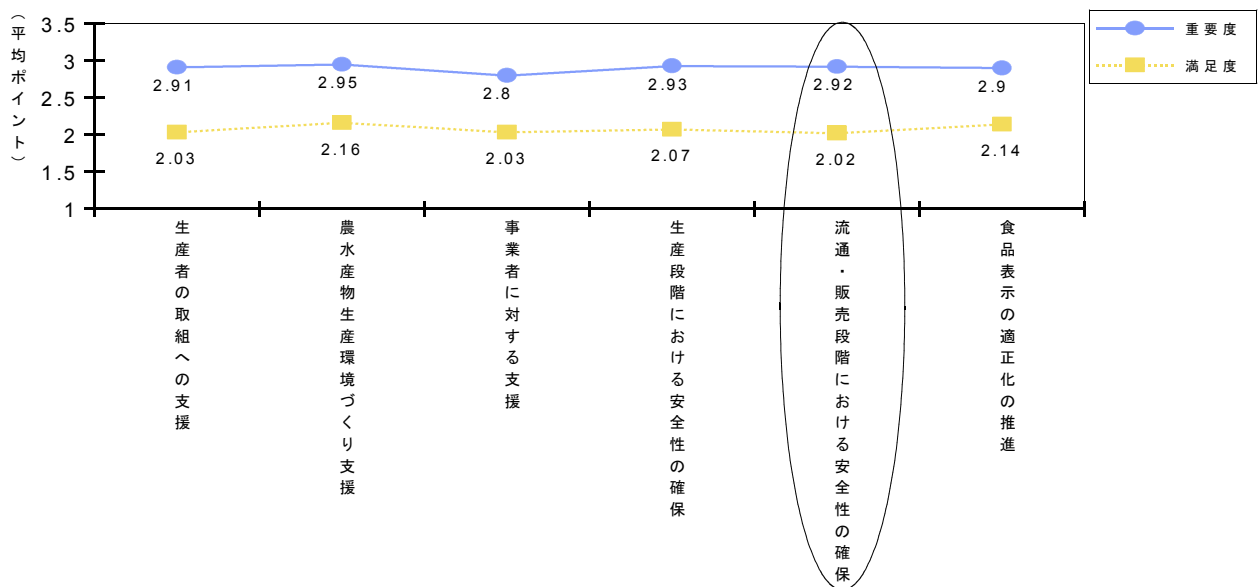
問4 安全で安心できる食品を供給するための下記の取組について、どのくらい重要だと思いますか（重要度）。また、十分に行われていると思いますか（満足度）。（3段階評価）

※今年度からの新設問

A 生産者の取組への支援	B 安全安心な農水産物生産環境づくり支援
C 事業者に対する支援	D 生産段階における安全性の確保
E 流通・販売段階における安全性の確保	F 食品表示の適正化の推進
G その他	

重要度	1 重要だと思う	2 どちらともいえない	3 重要だと思わない
満足度	1 十分行われている	2 どちらともいえない	3 不十分である

食の安全性を確保するための各取組について、回答者が重要だと考える（重要度が高い）が十分に行われていないと認識している（満足度が低い）取組を優先的に取り組むべきと考え、最も優先すべき項目は、「流通・販売段階における安全性の確保」であった。次いで、「生産者の取組への支援」、「生産段階における安全性の確保」の順であった。



H30 食品の安全性を供給するための取組の重要度と満足度

※平均ポイントは、「重要だと思う」「十分行われている」を3点、「どちらともいえない」を2点、「重要だと思わない」「不十分である」を1点として平均したもの。重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。

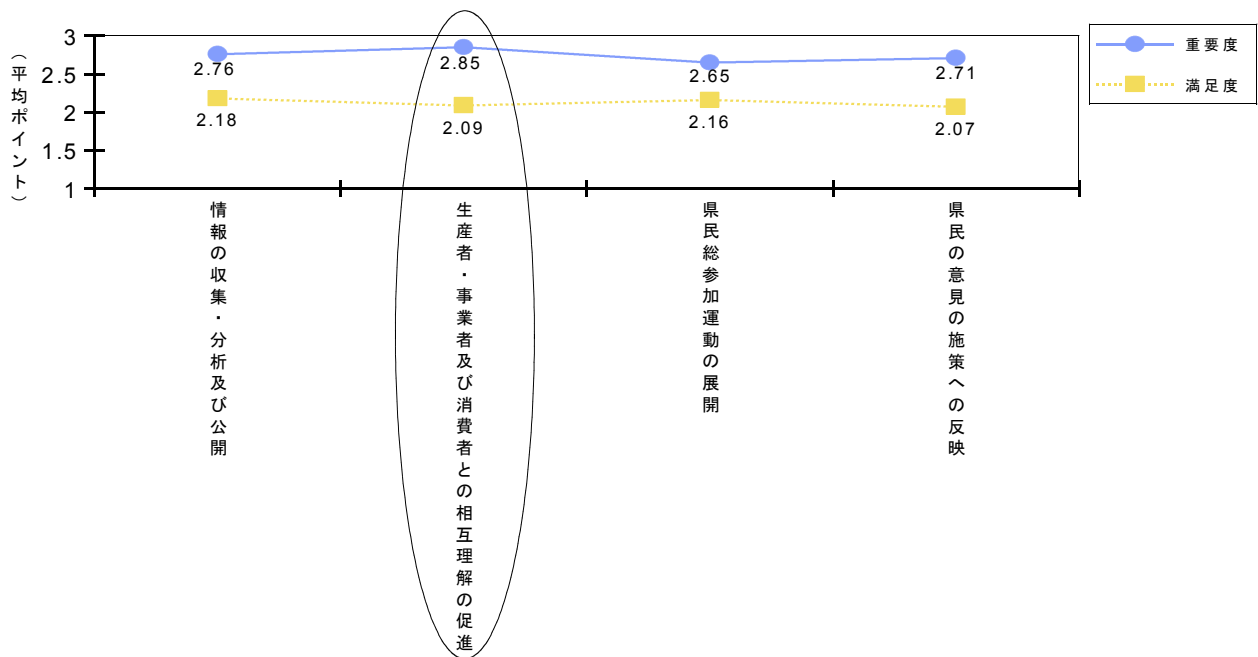
問5 食の安全安心に係る信頼関係を確立するための下記の取組について、どのくらい重要だと思いますか（重要度）。また、十分に行われていると思いますか（満足度）。（3段階評価）

※今年度からの新設問

A 情報の収集, 分析及び公開	B 生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進
C 県民総参加運動の展開	D 県民の意見の施策への反映 E その他

重要度	1 重要だと思う	2 どちらともいえない	3 重要だと思わない
満足度	1 十分行われている	2 どちらともいえない	3 不十分である

食の安全安心に係る信頼関係を確立するための各取組について、回答者が重要だと考える（重要度が高い）が十分に行われていない（満足度が低い）取組を優先的に取り組むべきと考え、最も優先すべき項目は、「生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進」であり、次いで「情報の収集・分析及び公開」、「県民の意見の施策への反映」の順であった。



H30 食品の安全性を供給するための取組の重要度と満足度

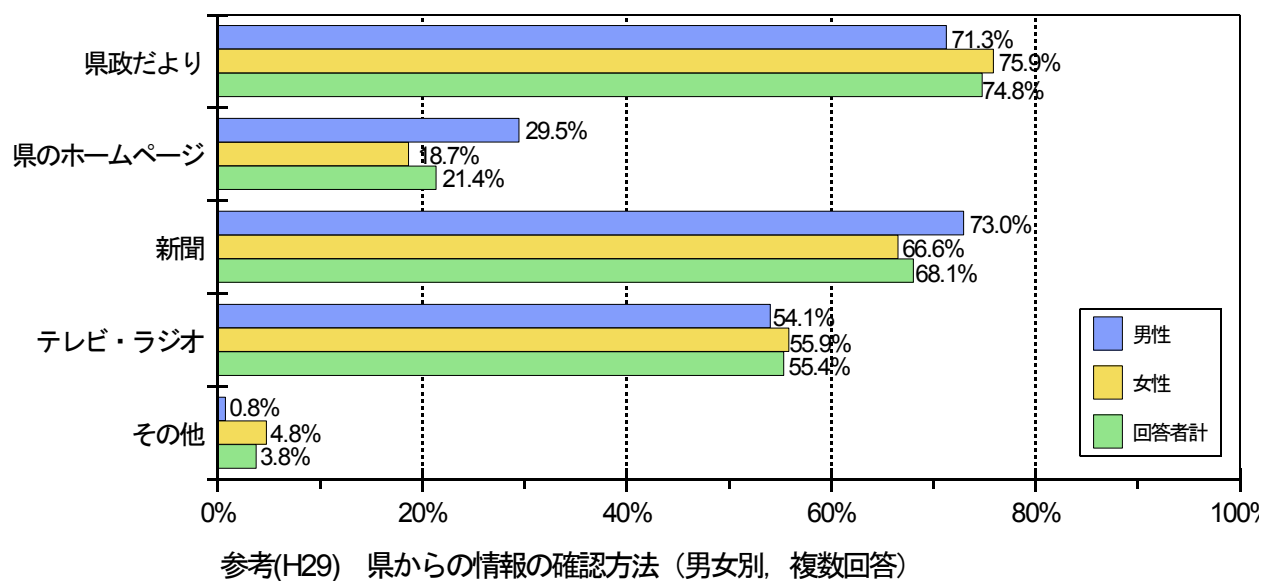
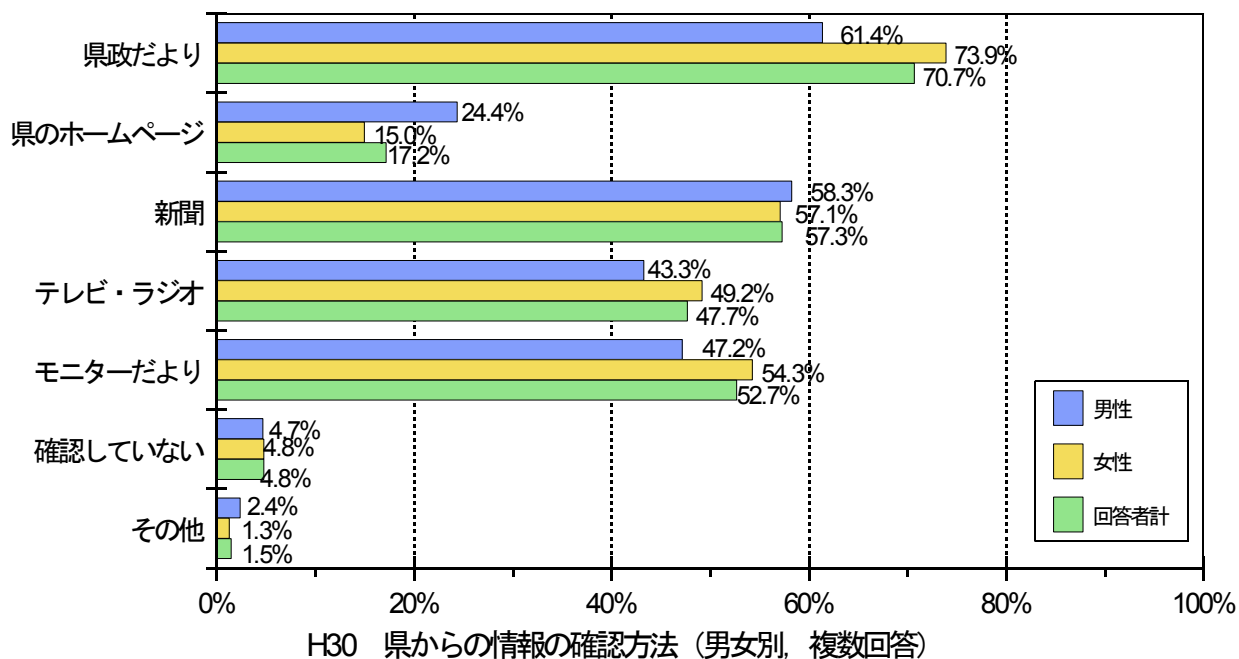
※平均ポイントは、「重要だと思う」「十分行われている」を3点、「どちらともいえない」を2点、「重要だと思わない」「不十分である」を1点として平均したもの。重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。

問6 どのようにして県が出す食の安全安心に関する情報を確認していますか。
(複数回答)

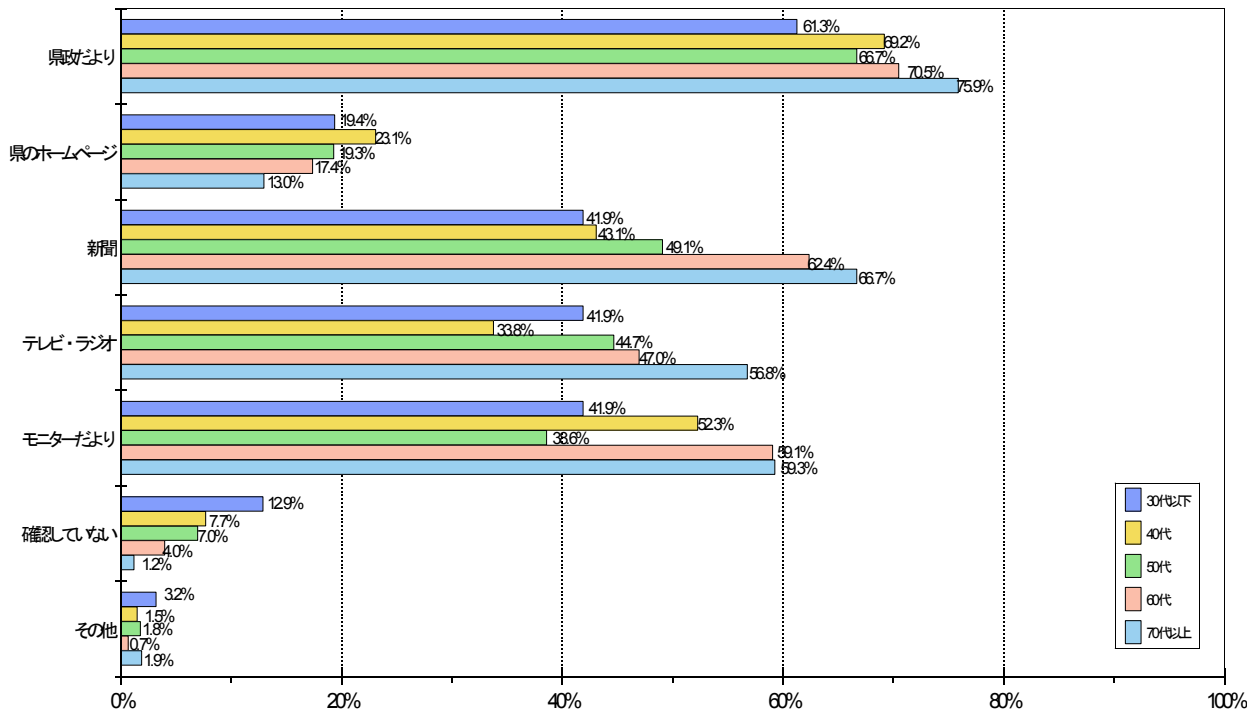
- | | | | |
|-----------|------------|-------|-----------|
| 1 県政だより | 2 県のホームページ | 3 新聞 | 4 テレビ・ラジオ |
| 5 モニターだより | 6 確認していない | 7 その他 | |

県が出す食の安全安心に関する情報の確認方法は、「県政だより」(70.7%)が最も多く、次いで「新聞」(57.3%)、「モニターだより」(52.7%)の順となった。今年度から追加された項目「モニターだより」以外は昨年と同様の傾向であった。

男女別では、「県政だより」の項目で有意差が見られ、女性の回答割合が高い。また、「県のホームページ」の項目では、男性の回答割合が高い。

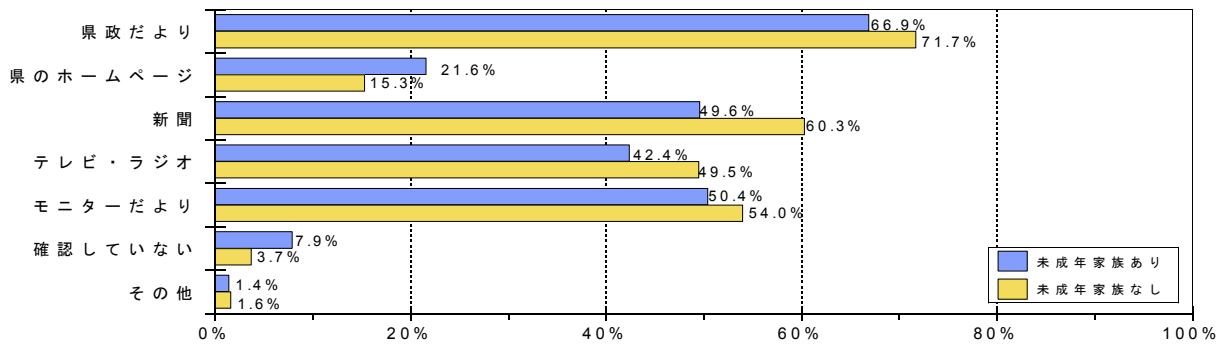


年代別では、「新聞」の項目で有意差が見られ、70代以上の回答割合が高い。また、「テレビ・ラジオ」の項目では、70代以上の回答割合が高く、40代の回答割合が低い。「モニターだより」の項目では、70代以上の回答割合が高く、50代の回答割合が低い。「確認していない」の項目では、30代以下の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。



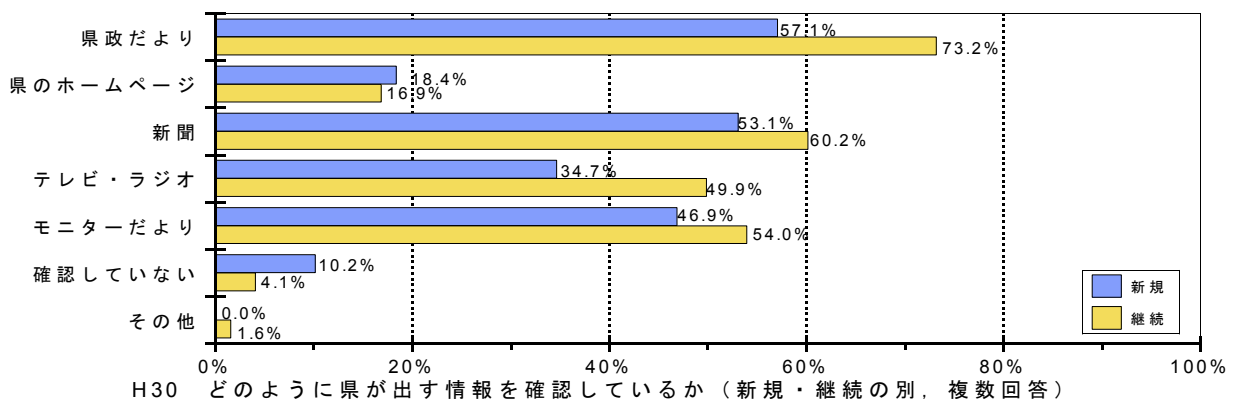
H30 どのように県が出す情報を確認しているか（年代別，複数回答）

未成年の家族の有無別では、「新聞」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。また、「確認していない」の項目では、「未成年家族あり」の回答割合が高い。



H30 どのように県が出す情報を確認しているか（未成年家族の有無別，複数回答）

新規・継続の別では、「県政だより」と「テレビ・ラジオ」の項目で有意差が見られ、いずれも継続モニターの回答割合が高い。



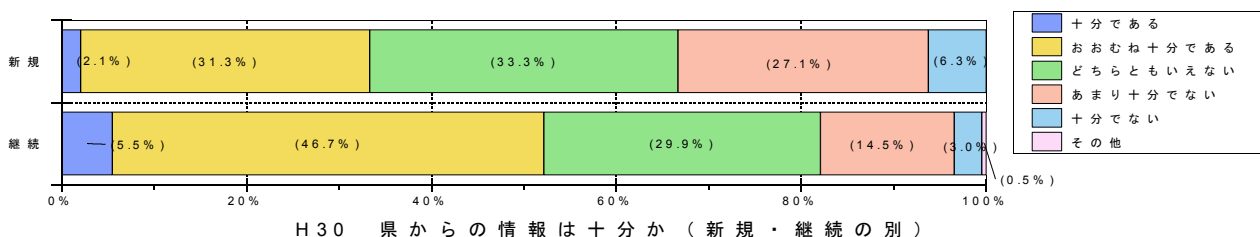
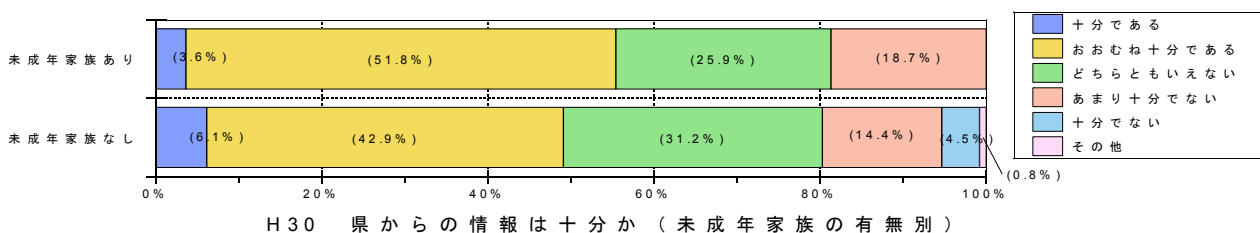
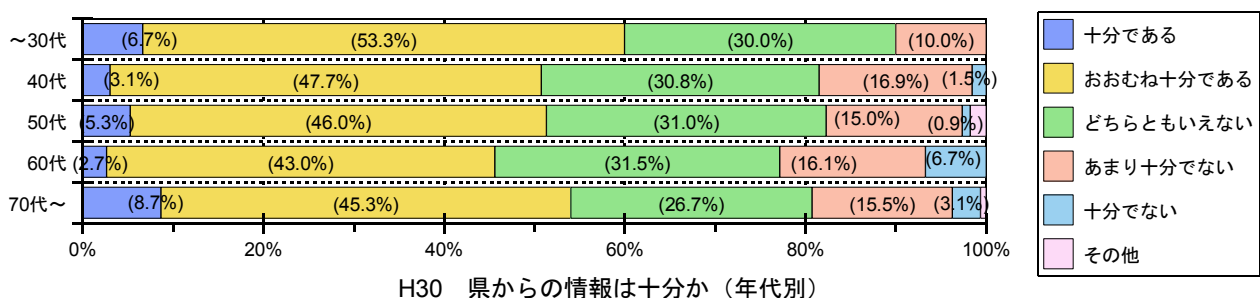
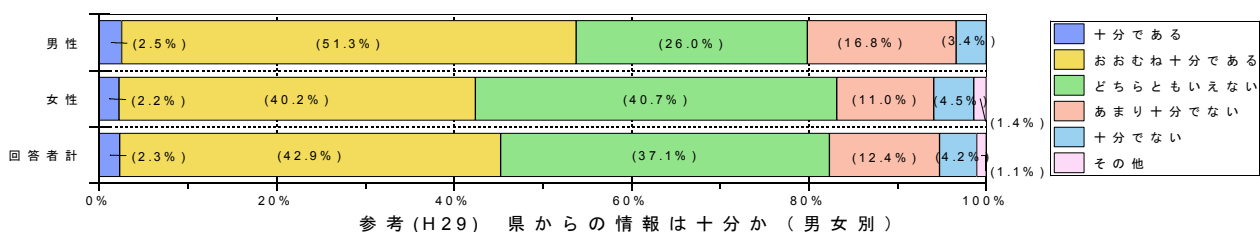
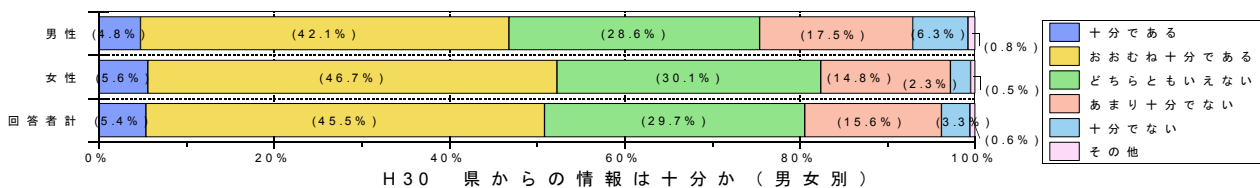
H30 どのように県が出す情報を確認しているか（新規・継続の別，複数回答）

問7 県からの食の安全安心に関する情報提供について、十分だと感じていますか。
(単一回答)

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1 十分である | 2 おおむね十分である | 3 どちらともいえない |
| 4 あまり十分でない | 5 十分でない | 6 その他 |

県からの情報提供については、「十分である」(5.4%)と「おおむね十分である」(45.5%)を合わせて50.9%となり、昨年度に比べ5.7ポイント増加した。

男女別、年代別、未成年家族の別、新規・継続の別のそれぞれにおいて、有意差は見られない。



問8 問7の理由はなんですか。自由にお書きください。

計302件の記述回答があり、問7で選んだ選択肢毎に、対応する主な理由、要望を下表にまとめた。

問7で「1 十分である」「2 おおむね十分である」と回答した者の主な理由は、「各種媒体で情報収集できるから」、「受け手側の意識の問題だと思うから」であった。

問7で「4 あまり十分でない」、「5 十分でない」と回答した者の主な理由は、「わかりにくいから」、「どのように情報提供されているか不明だから」であった。

	理由	要望
1	<ul style="list-style-type: none"> 各種媒体で情報を得ているから (7) 信頼しているから (2) 	<ul style="list-style-type: none"> PC等使用しない人にも分かりやすい情報提供をしてほしい (1)
2	<ul style="list-style-type: none"> 各種媒体で情報を得ているから (64) 受け手側の意識の問題だと思うから (16) モニターに参加することで情報を得ているから (6) 情報が分かりやすいと思うから (4) 重要な情報は得ていると思うから (4) 県からの情報を信頼するのみだから (4) セミナーやイベントに参加することで情報を得られるから (3) 身近に情報を得る機会があると感じるから (3) 放射性物質の検査等がきちんと行われていることが分かるから (2) 他県と比較して情報提供されていると感じるから (1) 	<ul style="list-style-type: none"> 原発事故から時間が経過するにつれて危険や安心を伝える記事が縮小されてるように思うので引き続き掲載してほしい (1) ニュースで積極的に放送してほしい (1) 多くの方のモニターへの参加を求む (1) 年齢問わず分かるように誌面で知れるようにしてほしい (1) 子供にも伝わるように努力してほしい (1) もう少しインパクトのある表現をしてほしい (1) テレビ、ラジオでは繰り返し放送してほしい (1) あまり関心を持たない若い世代への情報発信をしてほしい (1)
3	<ul style="list-style-type: none"> 受け手側の意識の問題だと思うから (26) 情報提供の全体像を把握していないから (5) 情報提供されているかが分からないから (4) 直接情報収集できる場が少ないと思うから (3) どこまで信頼して良いのか分からないから (3) マスコミで取り上げられないと知る機会がないと思うから (1) 興味の無い人には届いてないと思うから (3) わかりにくいと思うから (1) 	<ul style="list-style-type: none"> 貝毒の原因と今後どうなるかを知りたい (1) 放射性物質の測定結果がわかりにくい (1) 誰にでもわかりやすい情報提供をしてほしい (3) 地元メディアをもっと活用してほしい (2) PR等アピールをしっかりと行ってほしい (2) モニター以外の方にも情報を与えてほしい (4) 町内会、老人クラブ等のひとが集まる場所での情報提供があるといい (1)
4	<ul style="list-style-type: none"> テレビ等からの情報が分かりやすく、他の情報提供の媒体はよくわからないから (10) 情報発信の回数が少ないから (6) 受け手側の意識の問題であると思うから (6) わかりにくいから (4) 海産物に関する情報が少ないと思うから (1) 	<ul style="list-style-type: none"> 専門用語を使わずもっと情報をわかりやすく具体的にしてほしい (6) もっとテレビ・ラジオ・インターネットを活用すべき (8) もっと情報を発信してほしい (3) どこでも情報を見られる工夫をしてほしい (3)
5	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者にはわかりにくいから (4) 情報が多いと感じられない。自ら積極的に取りに行く必要があるから (2) どのように情報提供されているのか不明だから (1) 勉強会が身近にないから (1) 	<ul style="list-style-type: none"> HP・インターネット等が分からないので、紙での広報活動を増やしてほしい (1) 特に食の安全安心に関しての記事やニュースを目にすることがほばない。生きるための基本的問題なのでもっとアピールしてほしい (1)
6	<ul style="list-style-type: none"> 各自のアンテナが高くない限り、たくさんの情報を流しても意味がない (1) 	<ul style="list-style-type: none"> テレビのニュース番組等を使い、より広く広報してほしい (1)

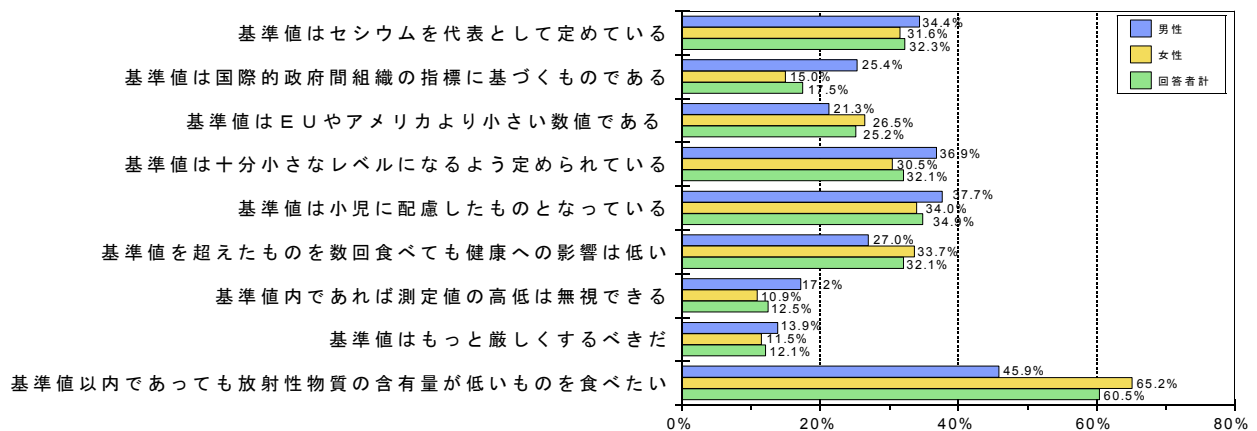
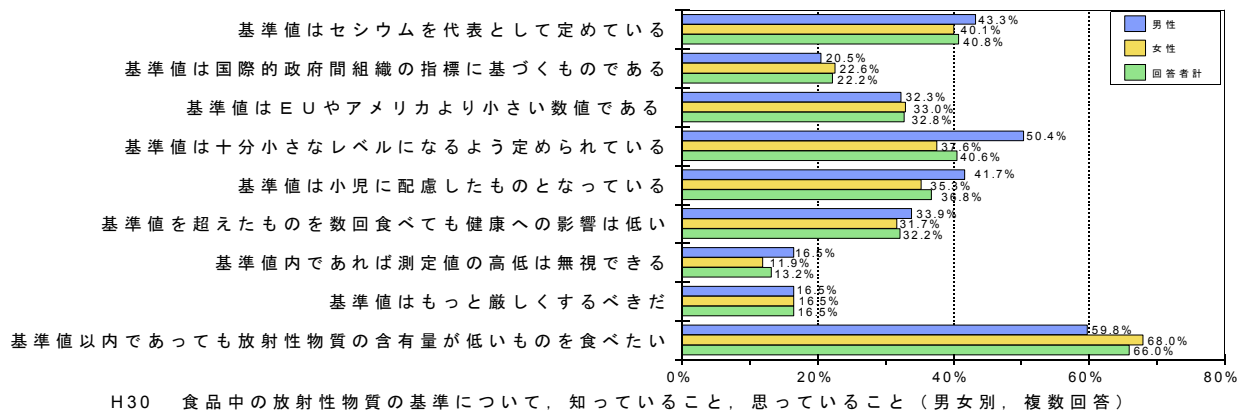
II 食と放射性物質について

問9 食品中の放射性物質の基準について、あなたが知っていることや思っていることは何ですか。(複数回答)

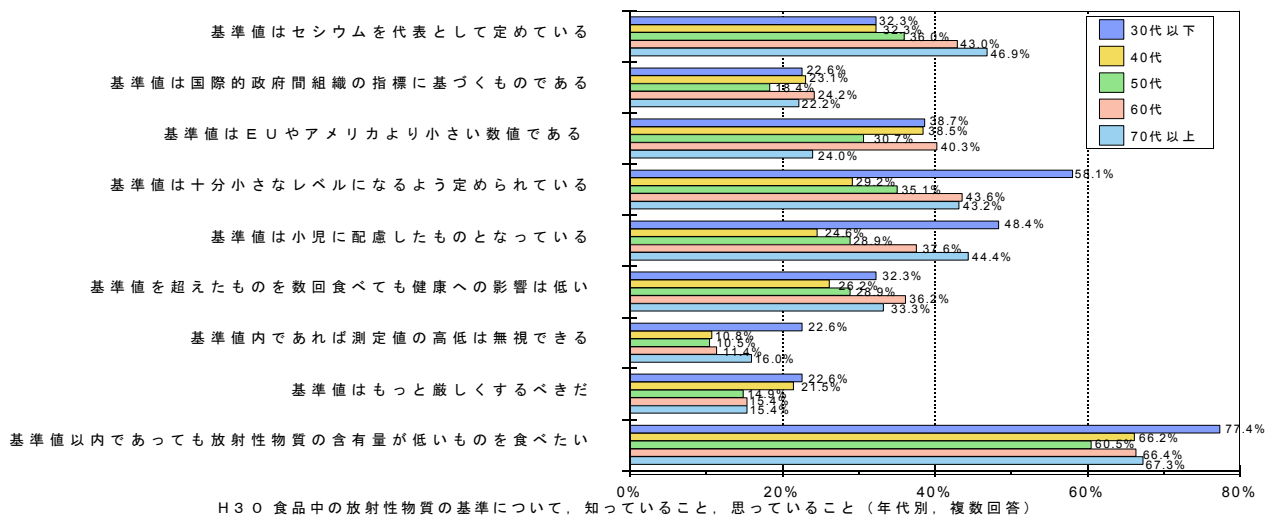
- 1 基準値は、他の放射性物質を考慮した上で、セシウムを代表として定めている
- 2 基準値は、事故直後の暫定規制値を改め、国際的政府間組織が、これ以上の措置をとる必要はないとしている指標に基づくものである
- 3 基準値はEUやアメリカより小さい数値である
- 4 生涯食べ続けても安全になるように、基準値は十分小さなレベルになるよう定められている
- 5 基準値は、一般食品100ベクレル/kgのほか、水10ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳各50ベクレル/kgであり、小児へ配慮したものとなっている
- 6 基準値を超えたものを数回程度食べたとしても、健康への影響は低い
- 7 基準値内であれば、測定値の高低は無視できる
- 8 基準値はもっと厳しくするべきだ
- 9 基準値以内であってもできるだけ放射性物質の含有量が低いものを食べたい

食品中の放射性物質の基準について知っていること、思っていることは、「基準値以内であってもできるだけ放射性物質の含有量が低いものを食べたい」(66.0%)が最も多く、次いで「基準値は、他の放射性物質を考慮した上で、セシウムを代表として定めている」(40.8%)、「生涯食べ続けても安全になるように、基準値は十分小さなレベルになるように定められている」(40.6%)の順である。

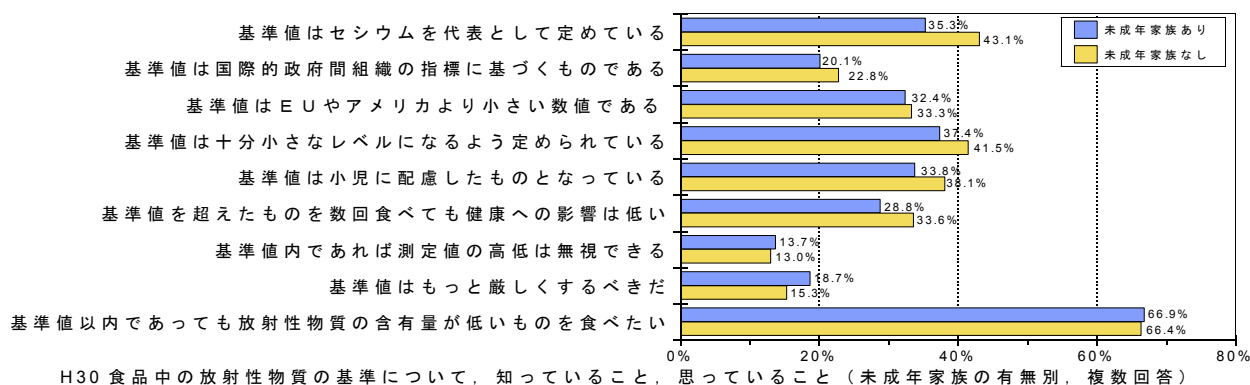
男女別では、「生涯食べ続けても安全になるように、基準値は十分小さなレベルになるよう定められている」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。



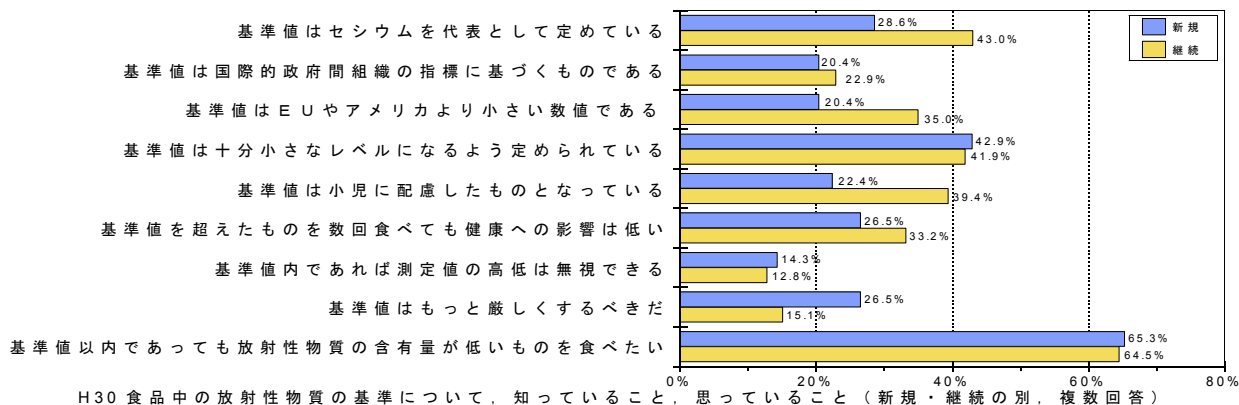
年代別では「基準値はEUやアメリカより小さい数値である」の項目で有意差が見られ、60代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。また、「生涯食べ続けても安全になるように、基準値は十分小さなレベルになるよう定められている」の項目では、30代以下の回答割合が高く、40代の回答割合が低い。「基準値は、一般食品100ベクレル/kgのほか、水10ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳各50ベクレル/kgであり、小児へ配慮したものとなっている」の項目では、70代以上の回答割合が高く、40代と50代の回答割合が低い。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では「基準値はEUやアメリカより小さい数値である」の項目で有意差が見られ、継続モニターの高回答割合が高い。また、「基準値は、一般食品100ベクレル/kgのほか、水10ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳各50ベクレル/kgであり、小児へ配慮したものとなっている」の項目では、継続モニターの高回答割合が高い。「基準値はもっと厳しくするべきだ」の項目では、新規モニターの高回答割合が高い。

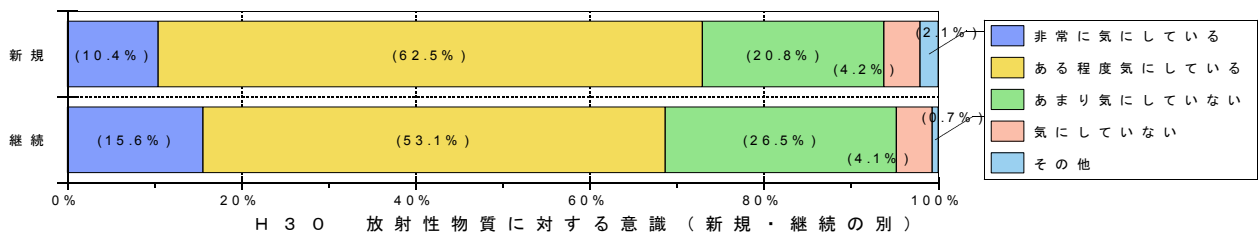
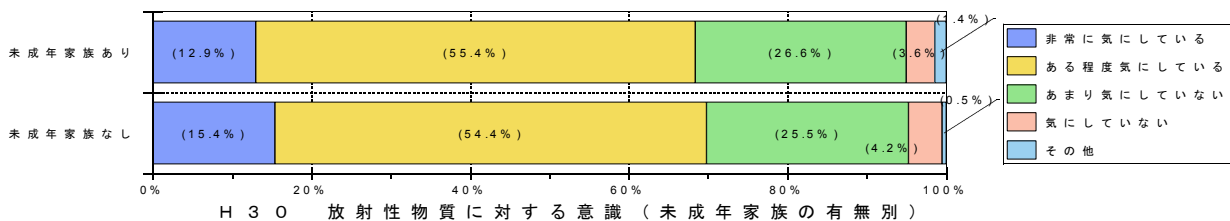
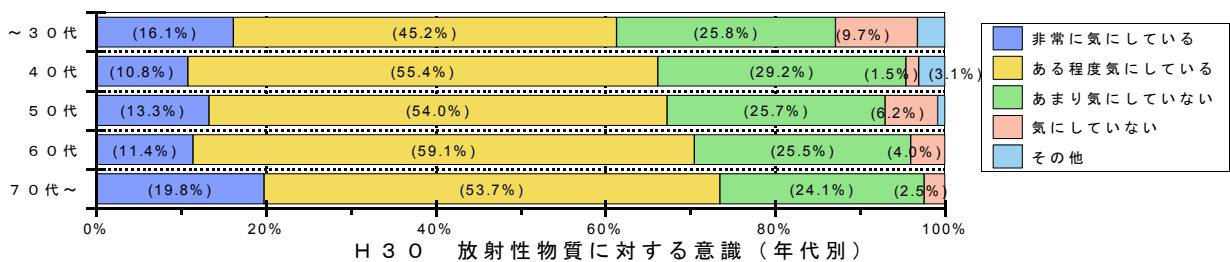
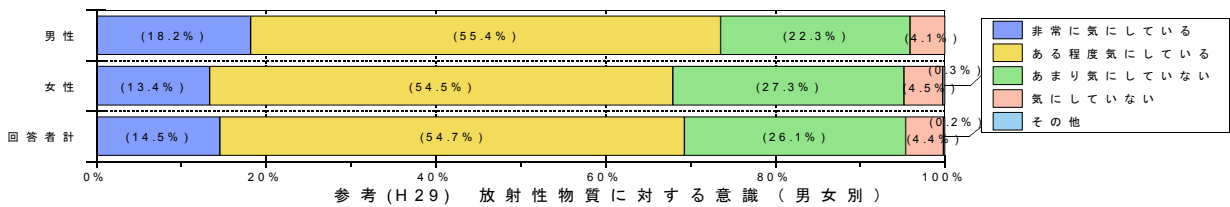
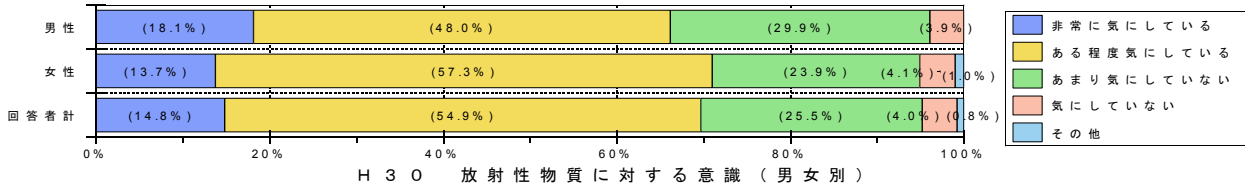


問10 食品中の放射性物質について、どの程度気にしていますか。(単一回答)

- 1 非常に気にしている 2 ある程度気にしている 3 あまり気にしていない
4 気にしていない 5 その他

放射性物質については、「非常に気にしている」(14.8%)、「ある程度気にしている」(54.9%)を合わせた69.7%の回答者が気にしており、昨年度に比べ0.5ポイント増加した。また、「あまり気にしていない」(25.5%)、「気にしていない」(4.0%)を合わせた回答者は29.5%で、昨年度に比べ1.0ポイント減少した。

男女別、年代別、未成年家族の有無別、新規・継続の別のそれぞれにおいて有意差は見られない。



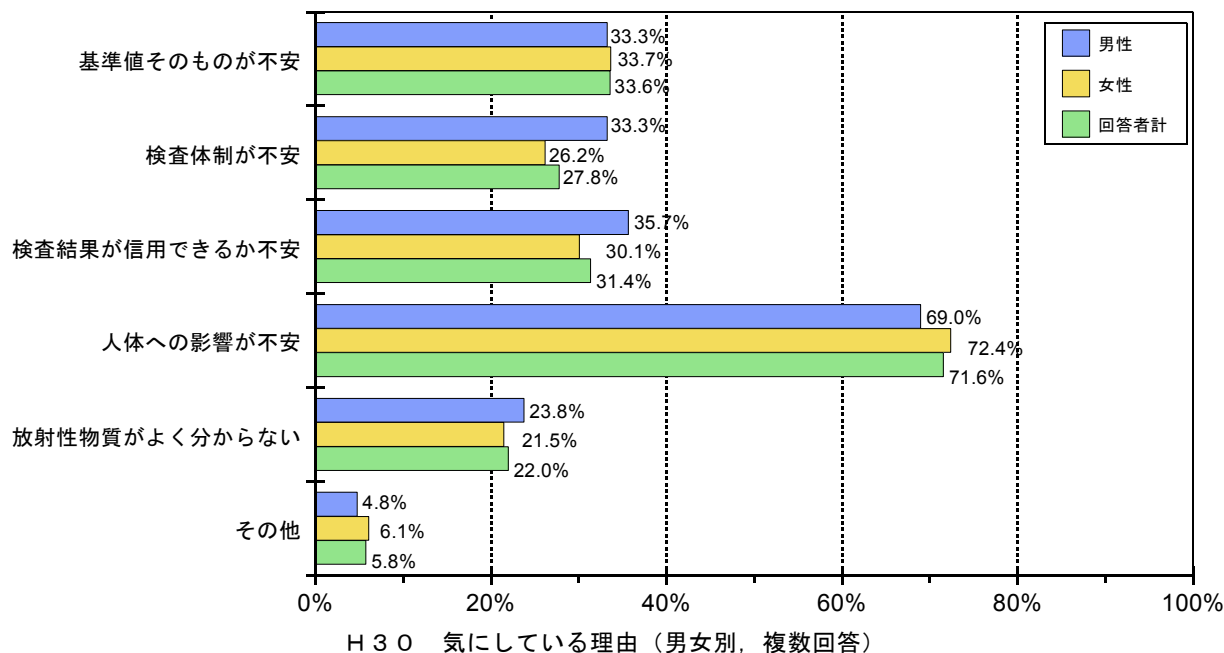
問 1 1 気にしている理由は何ですか。(複数回答)

※問 1 0 で 1 「非常に気にしている」、または 2 「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

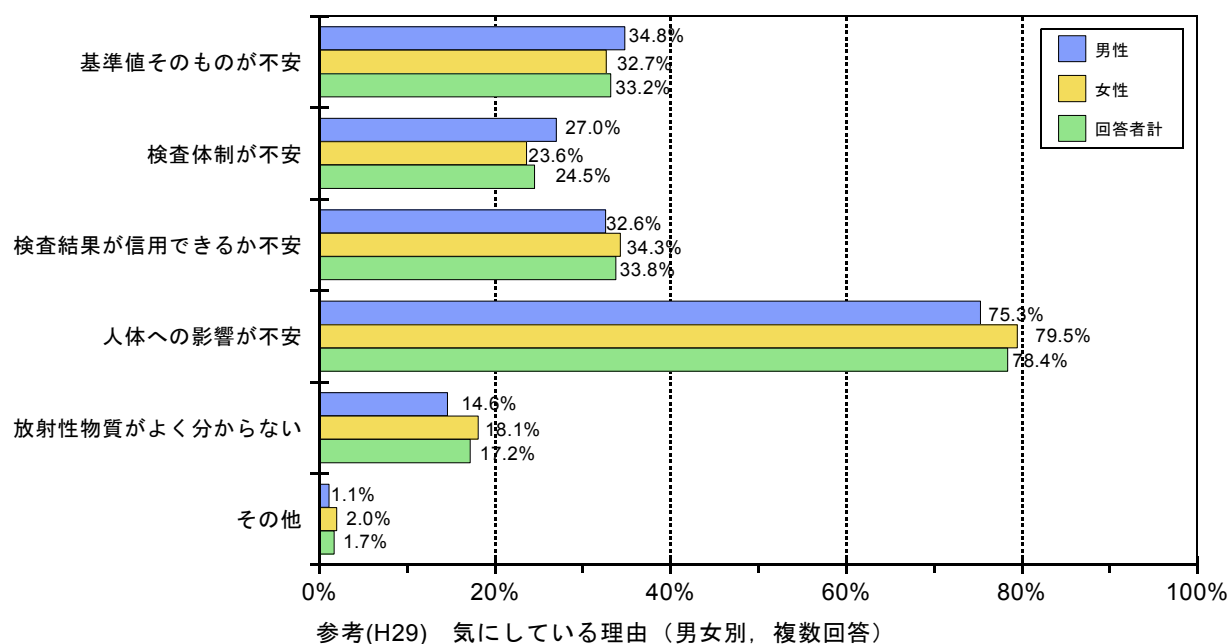
- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 基準値そのものが不安だから | 2 検査体制が不安だから |
| 3 公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから | |
| 4 人体への影響が不安だから | 5 そもそも放射性物質がよく分からず不安だから |
| 6 その他 | |

問 1 0 で「非常に気にしている」または「ある程度気にしている」の回答者のうち、その理由としては、「人体への影響が不安だから」(71.6%) が最も多く、次いで「基準値そのものが不安だから」(33.6%)、「公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから」(31.4%) の順である。

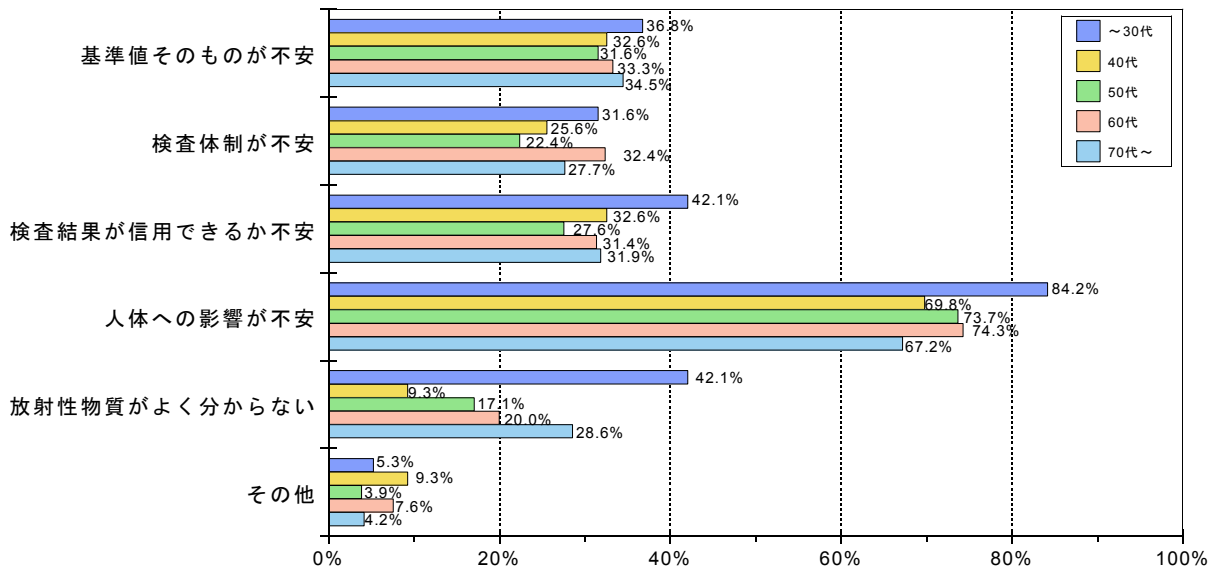
男女別では、有意差は見られない。



※問 1 0 で 1 「非常に気にしている」または 2 「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

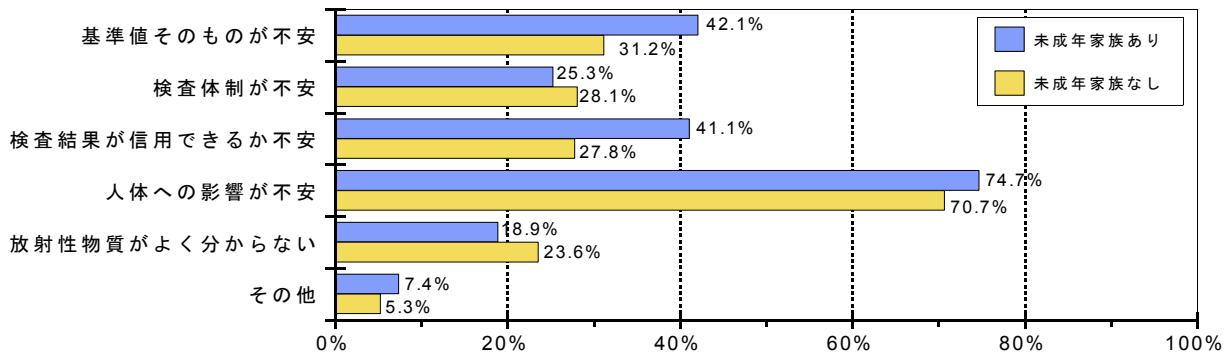


年代別では、「そもそも放射性物質がよく分からず不安だから」の項目で有意差が見られ、30代以下の回答割合が高く、40代の回答割合が低い。



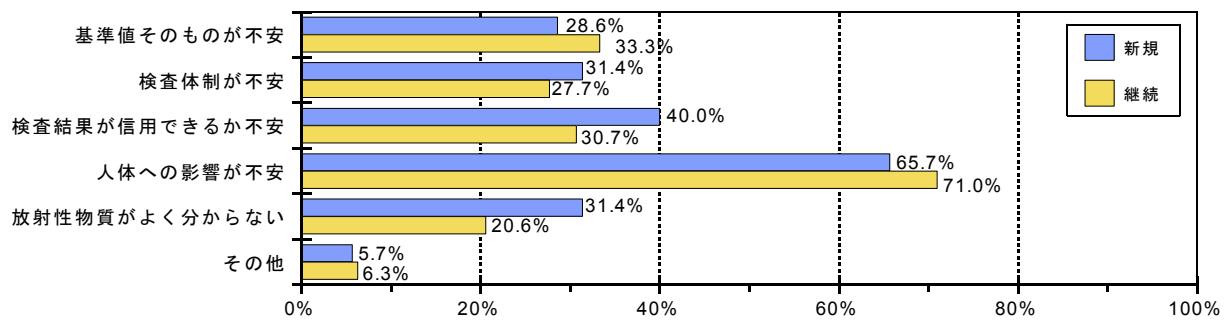
H30 気にしている理由（年代別，複数回答）
 ※問10で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

未成年家族の有無別では，有意差は見られない。



H30 気にしている理由（未成年家族の有無別，複数回答）
 ※問10で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

新規・継続の別では，有意差は見られない。



H30 気にしている理由（新規・継続の別，複数回答）
 ※問10で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

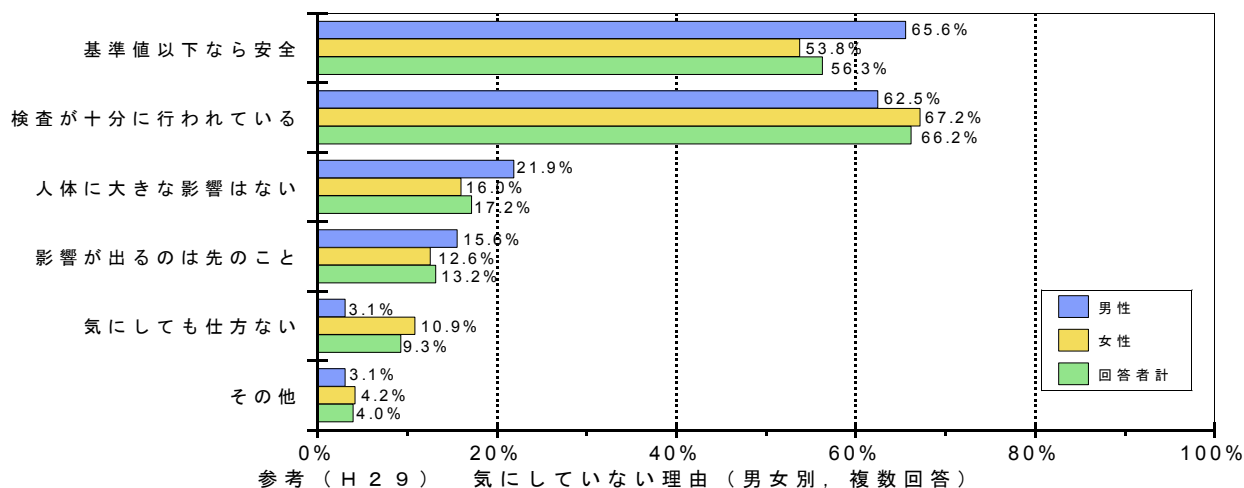
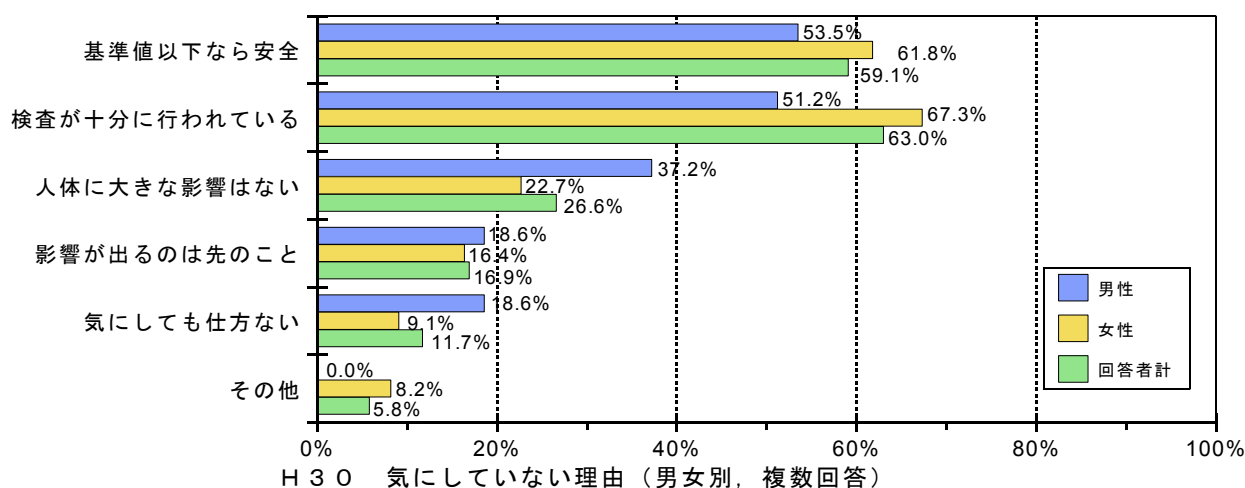
問12 気にしていない理由は何ですか。(複数回答)

※問10で3「あまり気にしていない」、または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

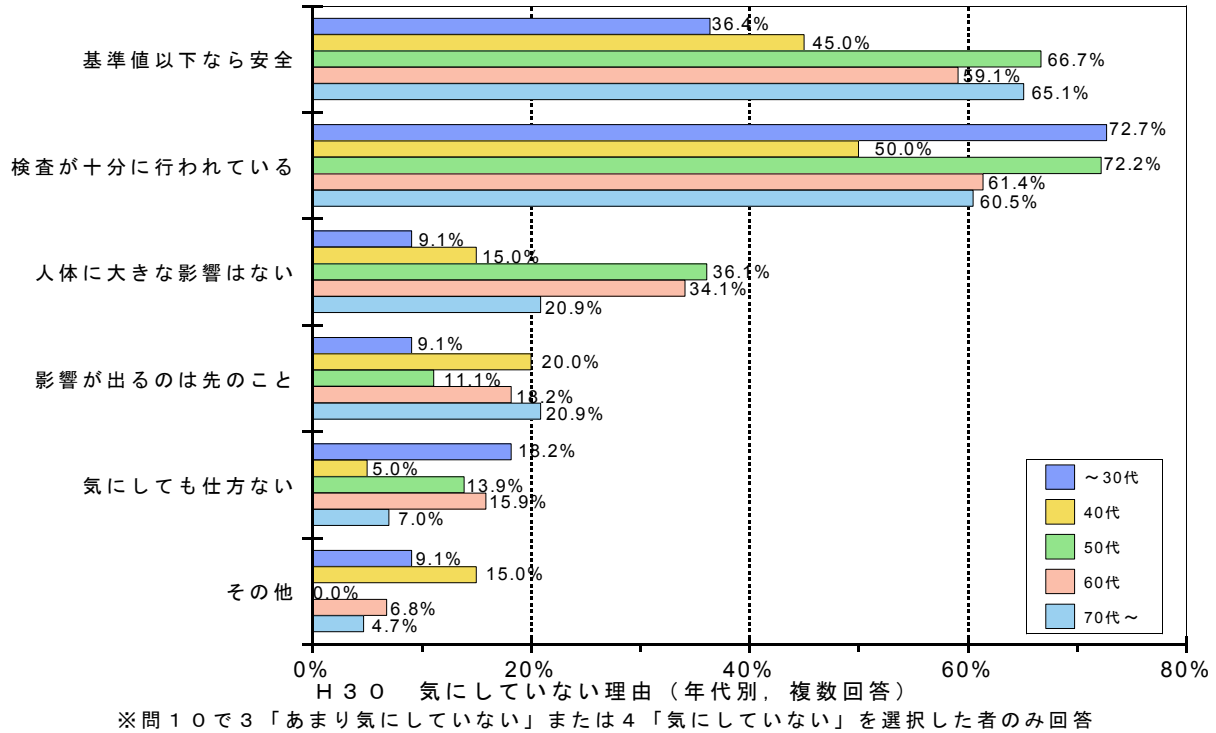
- 1 基準値以下なら安全だと思っているから
- 2 検査が十分に行われていると思っているから
- 3 人体に大きな影響はないと思っているから
- 4 放射性物質による影響が出るのは先のことから
- 5 放射性物質についてよく分からないので、気にしても仕方ないから
- 6 その他

問10で「あまり気にしていない」または「気にしていない」と回答した者のうち、その理由としては、「検査が十分に行われていると思っているから」(63.0%)が最も多く、次いで「基準値以下なら安全だと思っているから」(59.1%)の順である。また、昨年度に比べ、「基準値以下なら安全だと思っているから」は2.8ポイント増加し、「検査が十分に行われていると思っているから」は3.2ポイント減少した。

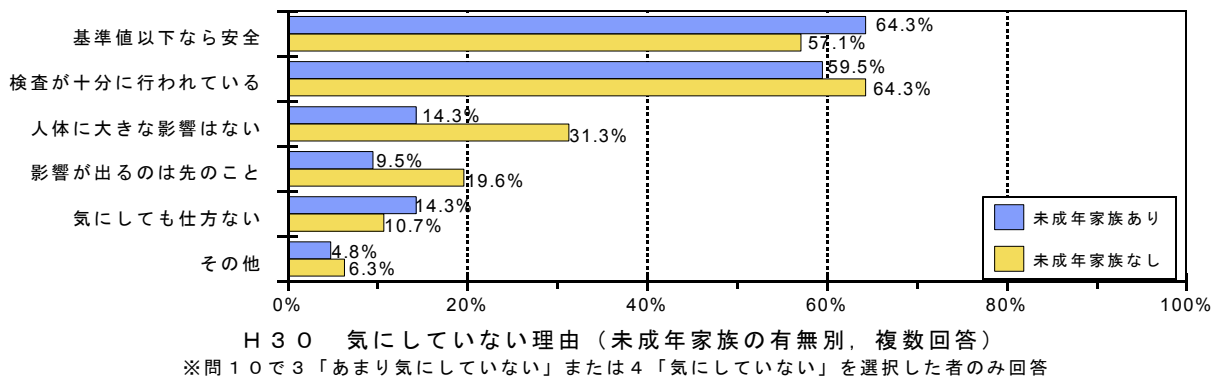
男女別では、有意差は見られない。



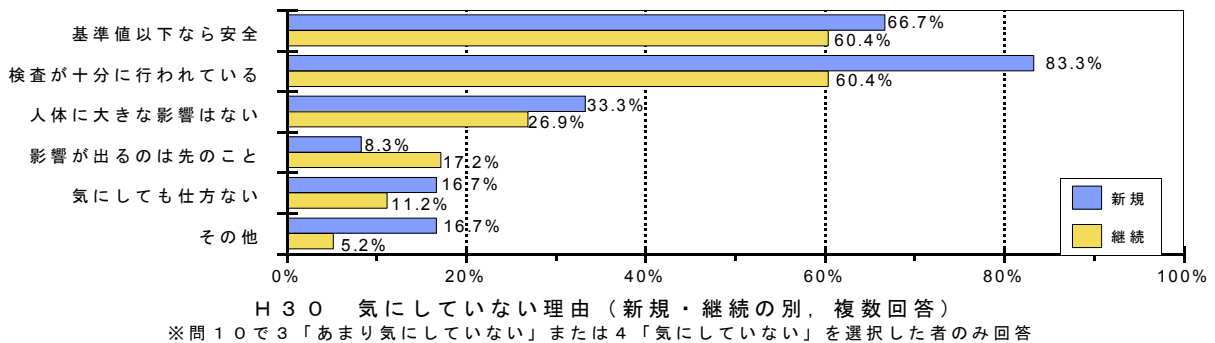
年代別では、有意差は見られない。



未成年家族の有無別では「人体に大きな影響はないと思っているから」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。



新規・継続の別では、有意差は見られない。

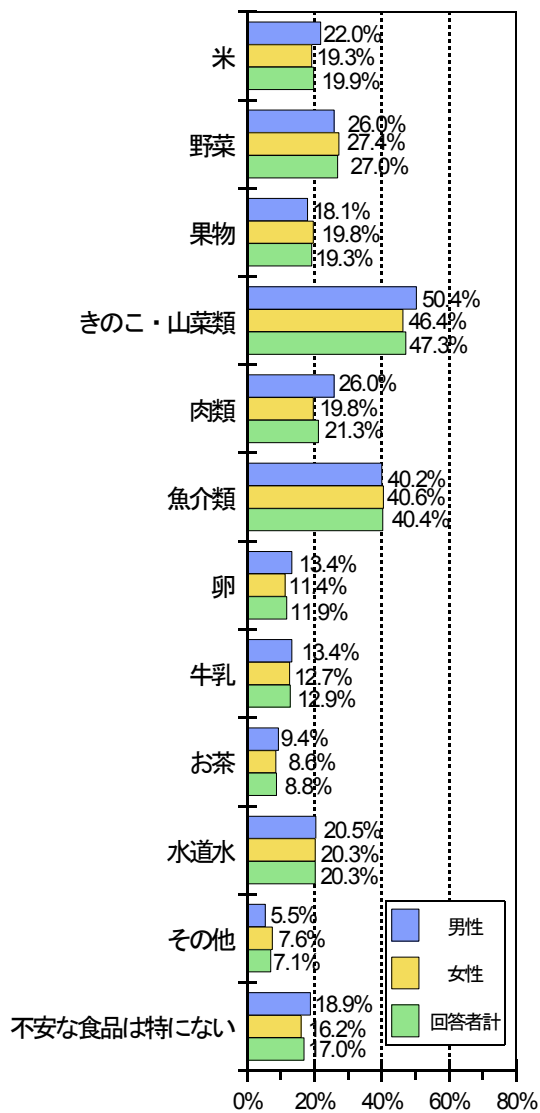


問13 現在どのような食品が不安ですか。(複数回答)

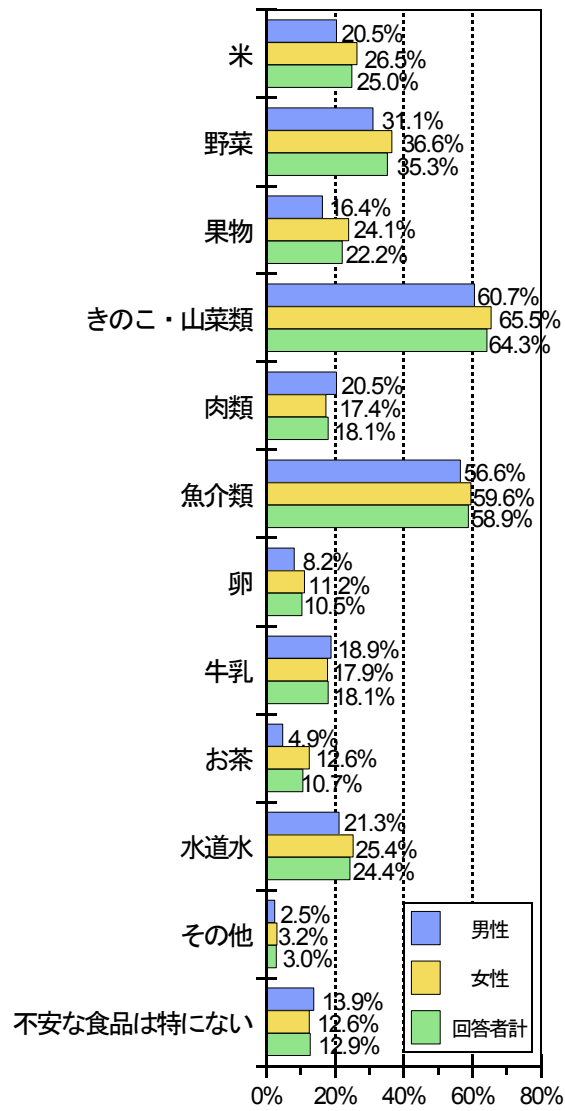
1 米	2 野菜	3 果物	4 きのこと山菜類	5 肉類	6 魚介類
7 卵	8 牛乳	9 お茶	10 水道水	11 その他	12 不安な食品は特にない

不安を抱えている食品としては、「きのこ・山菜類」(47.3%)、「魚介類」(40.4%)、「野菜」(27.0%)の順であり、昨年度同様、「きのこ・山菜類」、「魚介類」、「野菜」に対して不安を感じる人が多いが、その回答割合は低下している。一方、「不安な食品は特にない」(17.0%)は昨年度に比べ4.1ポイント増加した。

男女別では、有意差は見られない。

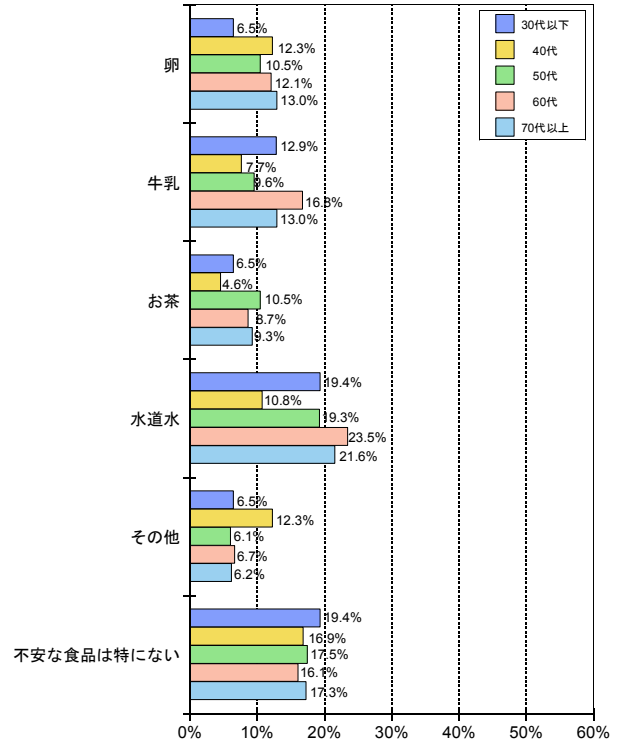
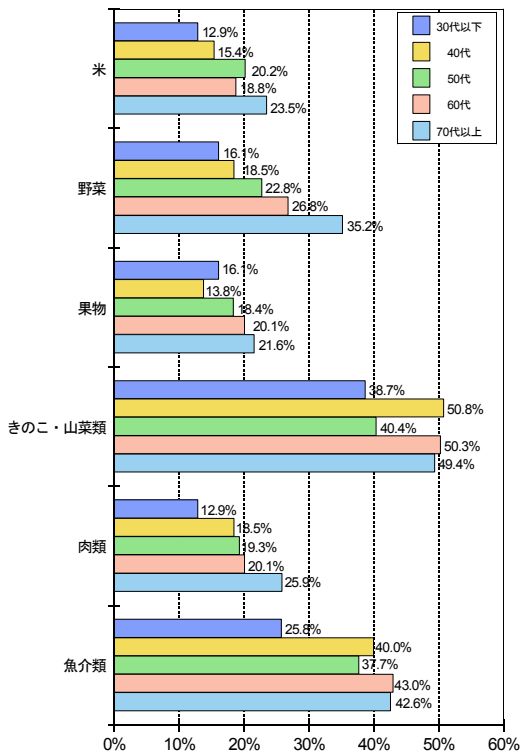


H30 不安を感じる食品 (男女別, 複数回答)

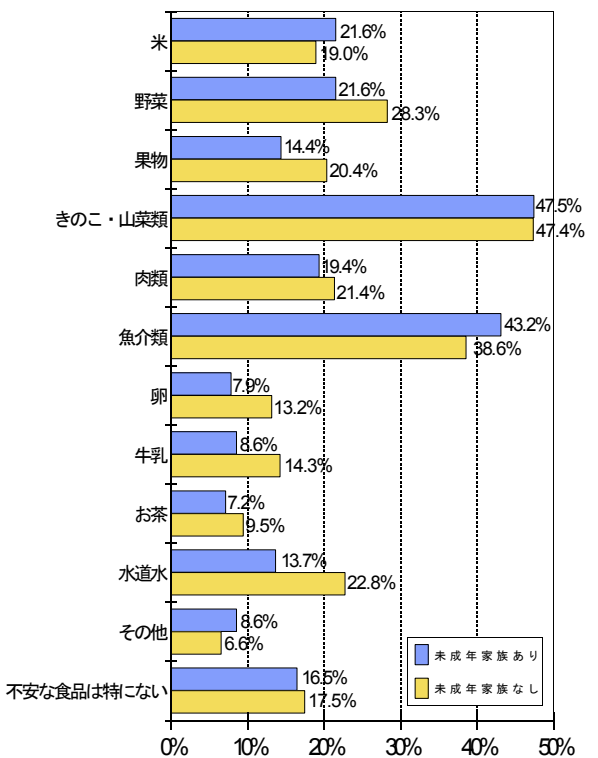


参考 (H29) 不安を感じる食品 (男女別, 複数回答)

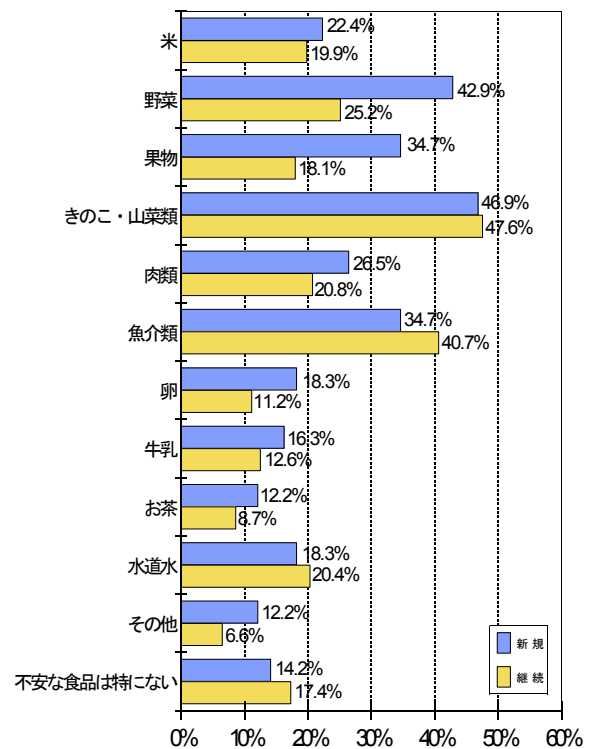
年代別では、「野菜」の項目で有意差が見られ、70代以上の回答割合が高い。



H30 不安を感じる食品（年代別、複数回答）



H30 不安を感じる食品（未成年家族の有無別、複数回答）



H30 不安を感じる食品（新規・継続の別、複数回答）

未成年家族の有無別では、「水道水」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。

新規・継続の別では、「野菜」と「果物」の項目で有意差が見られ、いずれも新規モニターの高回答割合が高い。

問 1 3 不安な食品の主な理由

() 内は理由回答人数

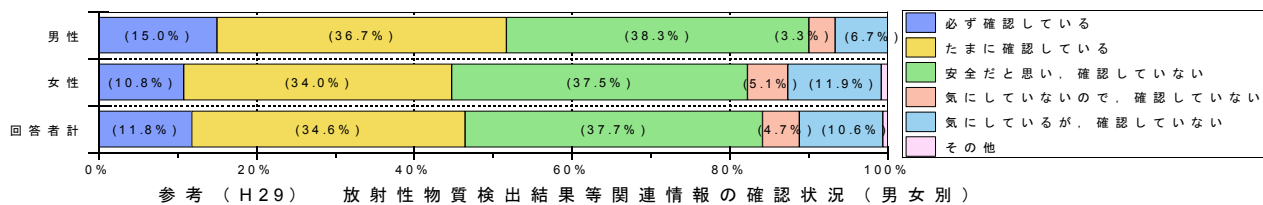
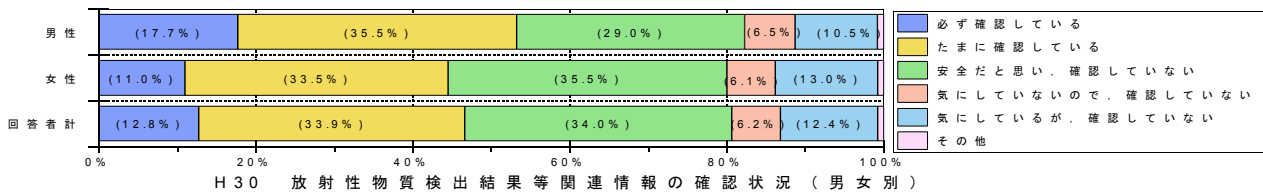
1. 米 (79)	2. 野菜 (117)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日食するものだから (30) ・ 農薬の使用, 残留農薬, ネオニコチノイド, 化学肥料(18) ・ 放射性物質 (産地の不安含む。) (16) ・ 産直販売, 自主流通(3) ・ その他(12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留農薬(32) ・ 放射性物質 (産地の不安含む。) (31) ・ 輸入品(13) ・ 毎日食べるものだから(11) ・ 生で食するものだから(6) ・ 産直のもの(4) ・ その他(20)
3. 果物 (83)	4. きのこと・山菜類 (193)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留農薬, 化学肥料(25) ・ 放射性物質 (産地の不安含む。) (21) ・ 輸入品(10) ・ 生食, 皮ごと食するから(6) ・ 毎日食べるものだから(4) ・ その他(17) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放射性物質(147) ・ 土壌汚染(7) ・ 産直, 自主的に採取したもの (4) ・ その他(35)
5. 肉類 (88)	6. 魚介類 (171)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸入品 (27) ・ 飼料 (餌に含まれる放射性物質含む。) (18) ・ 抗生剤や残留ホルモン(9) ・ 家畜の病気(6) ・ 加工品(3) ・ 添加物(2) ・ その他 (23) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放射性物質(40) ・ 海水汚染(37) ・ 生産地が不明な場合 (15) ・ 貝類 (牡蠣・帆立・ホヤ) (9) ・ 輸入品(7) ・ マイクロプラスチック(1) ・ 寄生生物, アニサキス(5) ・ ストロンチウム90(1) ・ その他(53)
7. 卵 (45)	8. 牛乳 (46)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 飼料 (15) ・ 抗生物質(5) ・ 毎日食するものだから(4) ・ 飼育方法(3) ・ 放射性物質(2) ・ その他(16) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飼料 (13) ・ 牧草の放射性物質による汚染 (12) ・ 毎日飲むものだから (3) ・ 飼育方法(3) ・ その他 (15)
9. お茶 (31)	10. 水道水 (71)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留農薬 (11) ・ 放射性物質(5) ・ 添加物, 薬品 (5) ・ 毎日飲むものだから (4) ・ その他 (6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消毒, 塩素(16) ・ 放射性物質(15) ・ 水道管やマンションのタンクの劣化 (11) ・ 毎日飲むから (8) ・ そのまま飲むから(5) ・ 水質汚染(4) ・ その他 (12)

問 1 4 食品を購入するとき、行政が発表している放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を確認していますか。(単一回答)

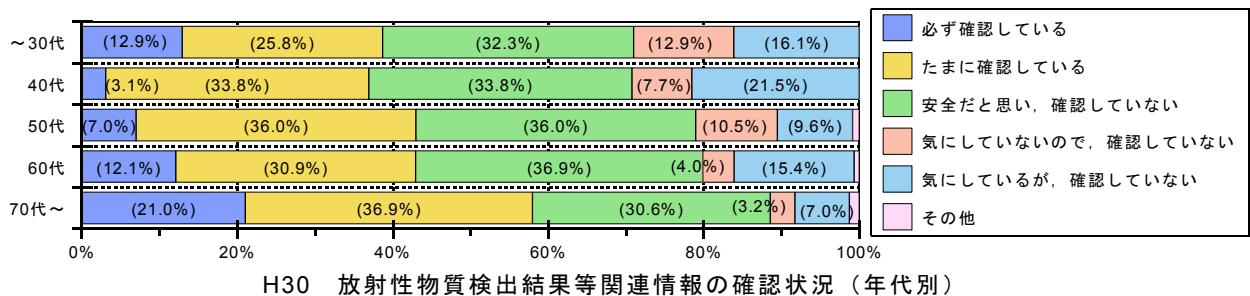
- | | |
|-------------------------------|-------------|
| 1 必ず確認している | 2 たまに確認している |
| 3 売られているものは安全だと思っているので確認していない | |
| 4 気にしていないので、確認していない | |
| 5 気にしているが、確認していない | 6 その他 |

放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報については、「必ず確認している」(12.8%)、「たまに確認している」(33.9%)を合わせて「確認している」が46.7%で、昨年度に比べ0.3ポイント増加した。一方、「売られているものは安全だと思っているので確認していない」(34.0%)、「気にしていないので、確認していない」(6.2%)、「気にしているが、確認していない」(12.4%)は合わせて52.6%であった。

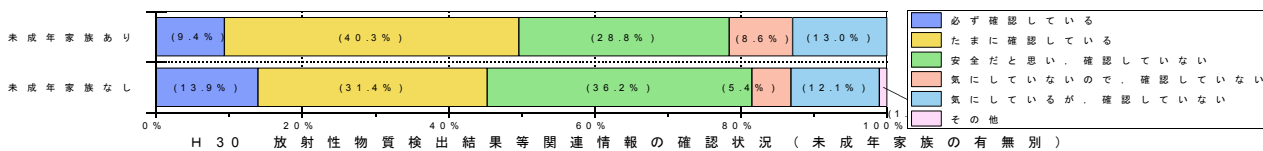
男女別では、有意差は見られない。



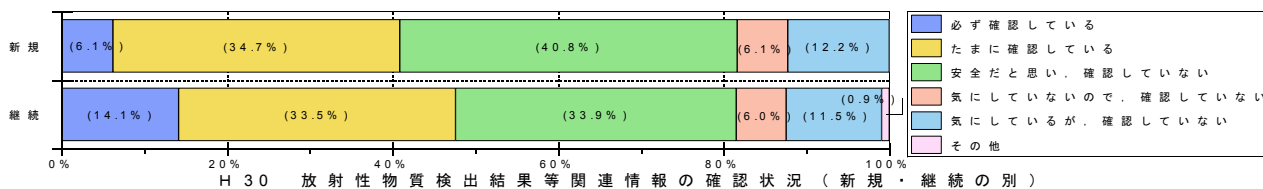
年代別では有意差が見られ、「必ず確認している」の項目では、70代以上の回答割合が高く、40代の回答割合が低い。また、「気にしているが、確認していない」の項目では、40代の回答割合が高い。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。



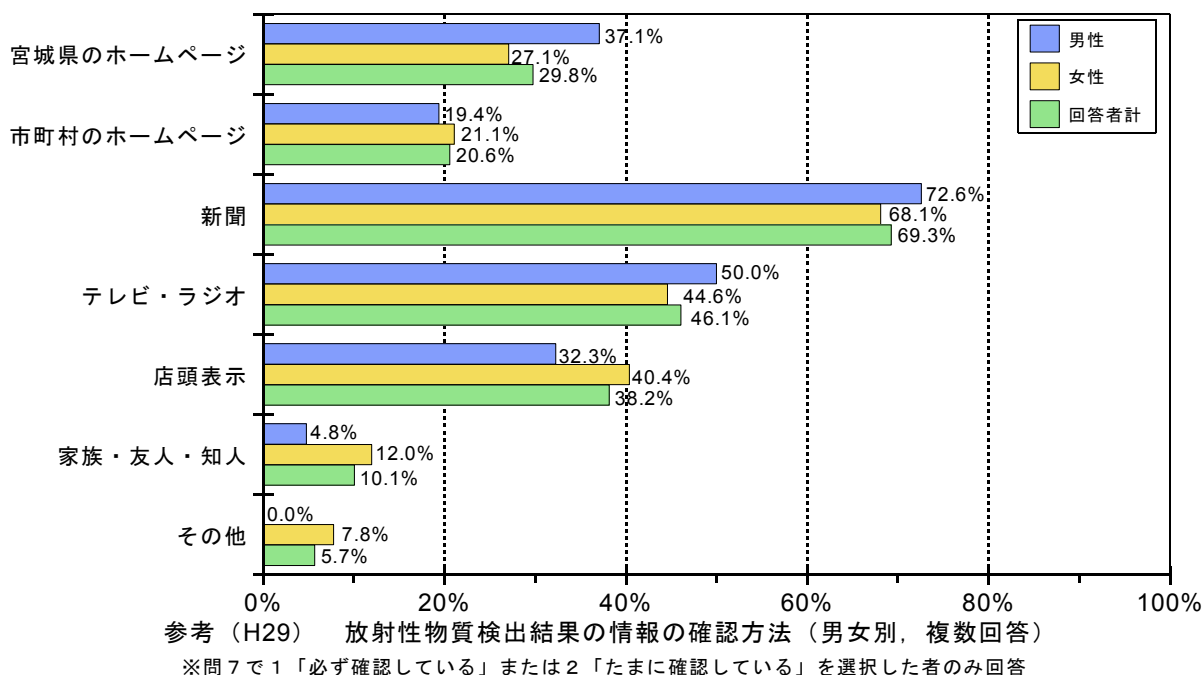
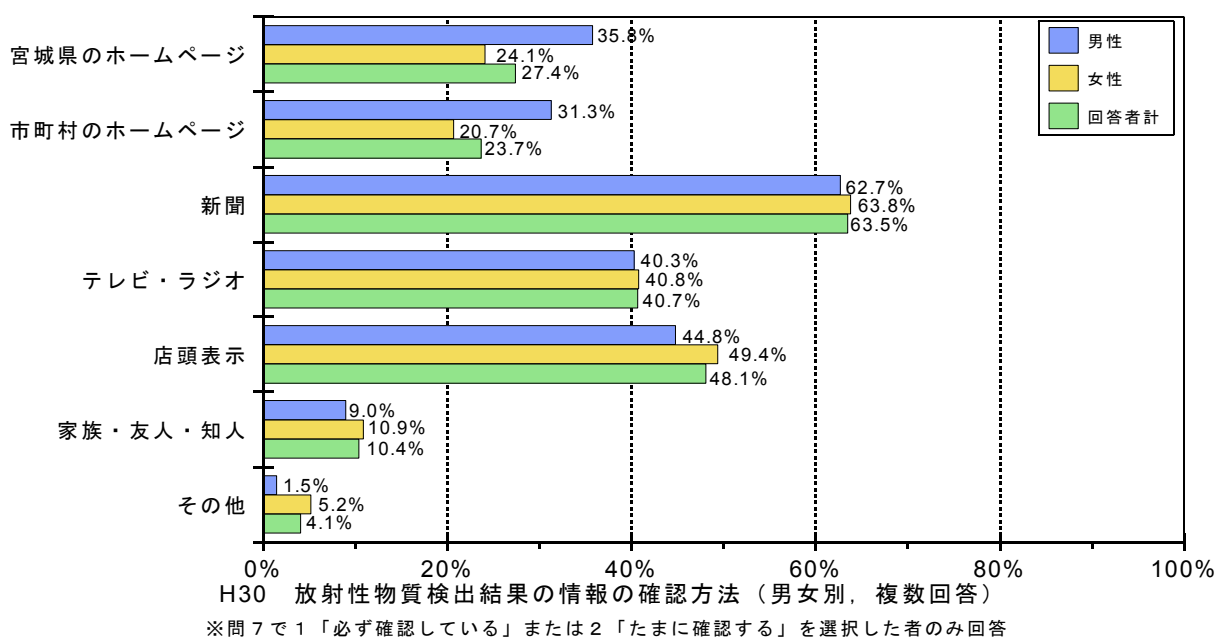
問15 放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を、どのように確認していますか。(複数回答)

※問14で1「必ず確認している」、または2「たまに確認している」を選択した者のみ回答

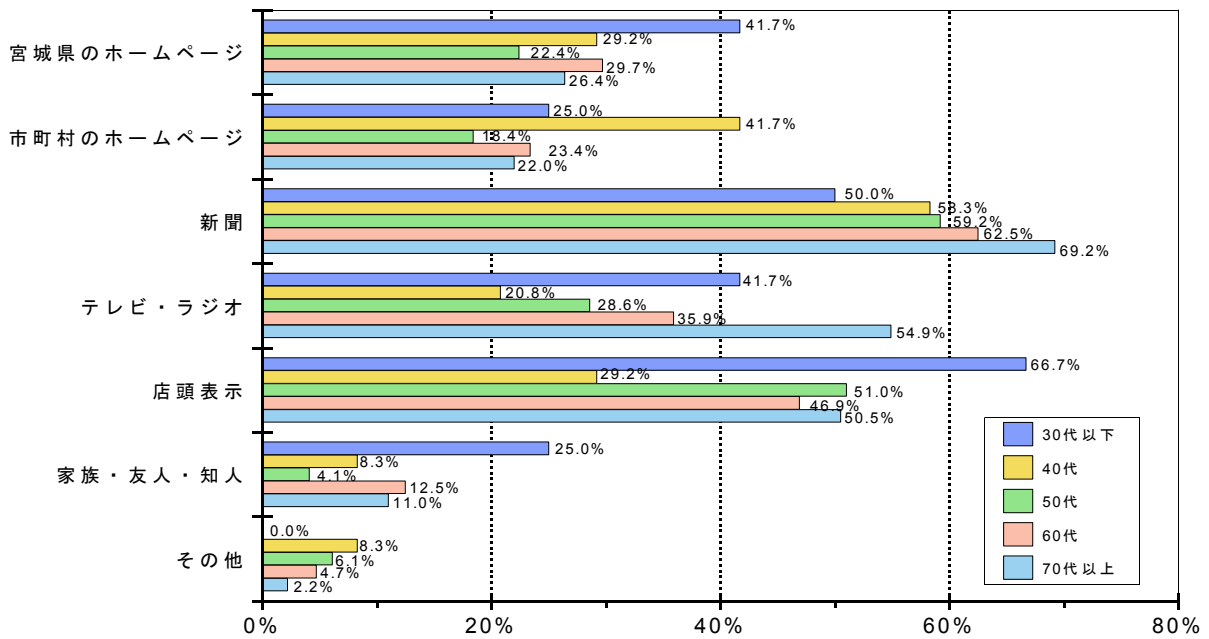
1 宮城県ホームページ	2 市町村ホームページ	3 新聞
4 テレビ・ラジオ	5 店頭表示	6 家族・友人・知人
7 その他		

食品を購入するときに放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を確認していると回答した人のうち、情報の確認方法としては、「新聞」(63.5%)が最も多く、次いで「店頭掲示」(48.1%)、「テレビ・ラジオ」(40.7%)の順となった。

男女別では、有意差は見られない。

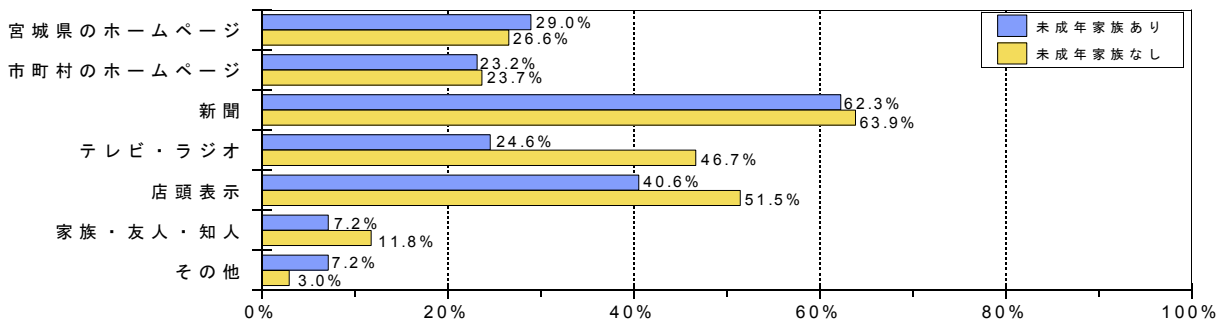


年代別では有意差が見られ、「市町村のホームページ」の項目では、40代以上の回答割合が高い。「テレビ・ラジオ」の項目では、70代以上の回答割合が高く、40代の回答割合が低い。



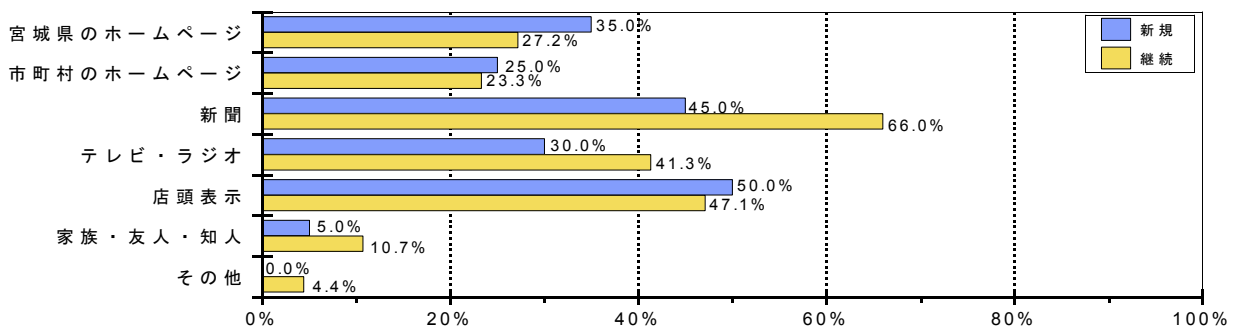
H30 放射性物質検出結果の情報の確認方法（年代別，複数回答）
 ※問14で1「必ず確認している」または2「たまたま確認している」を選択した者のみ回答

未成年家族の有無別では「テレビ・ラジオ」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。



H30 放射性物質検出結果の情報の確認方法（未成年家族の有無別，複数回答）
 ※問14で1「必ず確認している」または2「たまたま確認している」を選択した者のみ回答

新規・継続の別では、有意差は見られない。



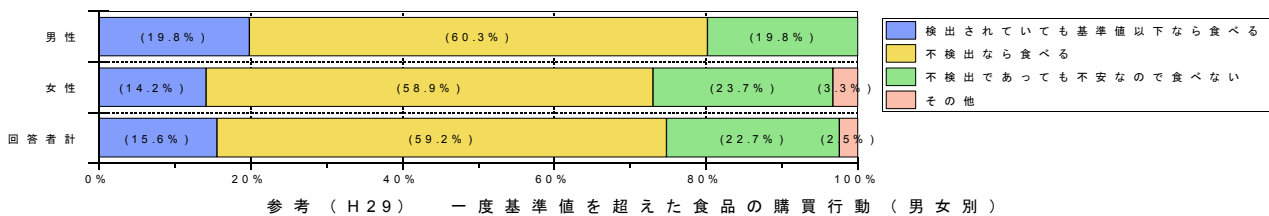
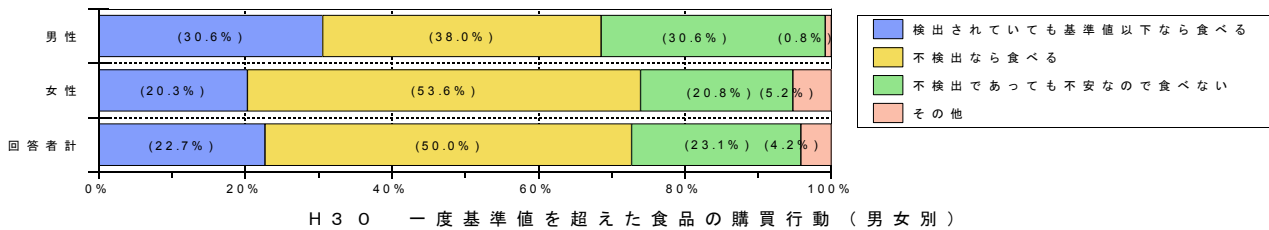
H30 放射性物質検出結果の情報の確認方法（新規・継続の別，複数回答）
 ※問7で1「必ず確認している」または2「たまたま確認している」を選択した者のみ回答

問16 一度基準値を超えた後に、基準値以下あるいは不検出となった食品について、あなたならどうしますか。(単一回答)

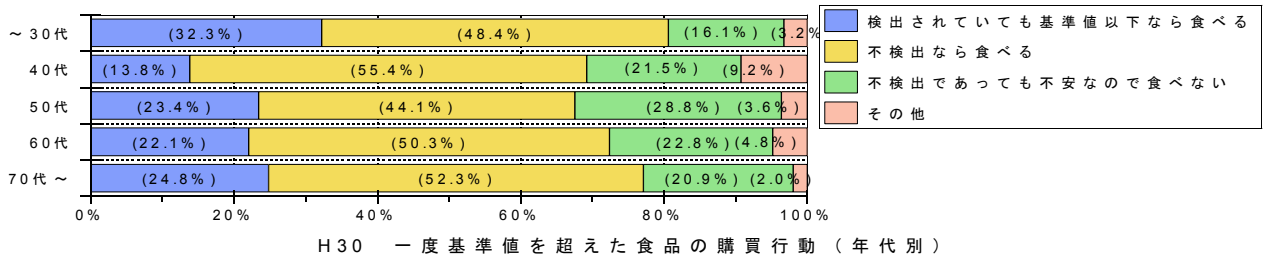
- | | |
|----------------------|------------|
| 1 検出されていても基準値以下なら食べる | 2 不検出なら食べる |
| 3 不検出であっても不安なので食べない | 4 その他 |

一度基準値を超えた後に、基準値以下あるいは不検出となった食品については、「検出されていても基準値以下なら食べる」(22.7%)、「不検出なら食べる」(50.0%)を合わせて「食べる」は72.7%で、昨年度に比べ2.1ポイント低下した。

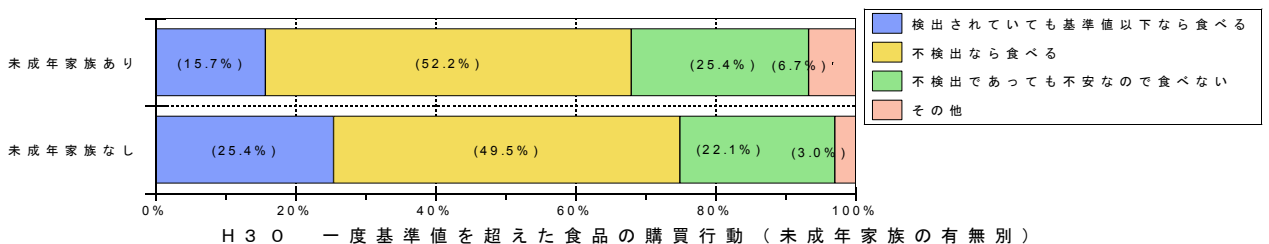
男女別では、「検出されていても基準値以下なら食べる」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。また、「不検出なら食べる」の項目では、女性の回答割合が高い。「不検出であっても不安なので食べない」の項目では、男性の回答割合が高い。



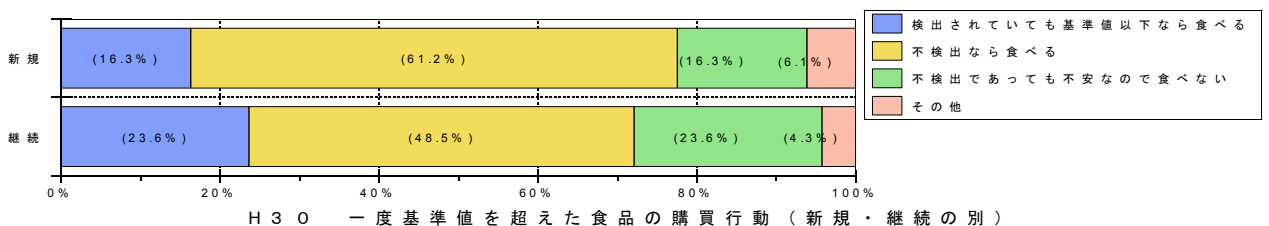
年代別では、有意差は見られない。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、有意差は見られない。

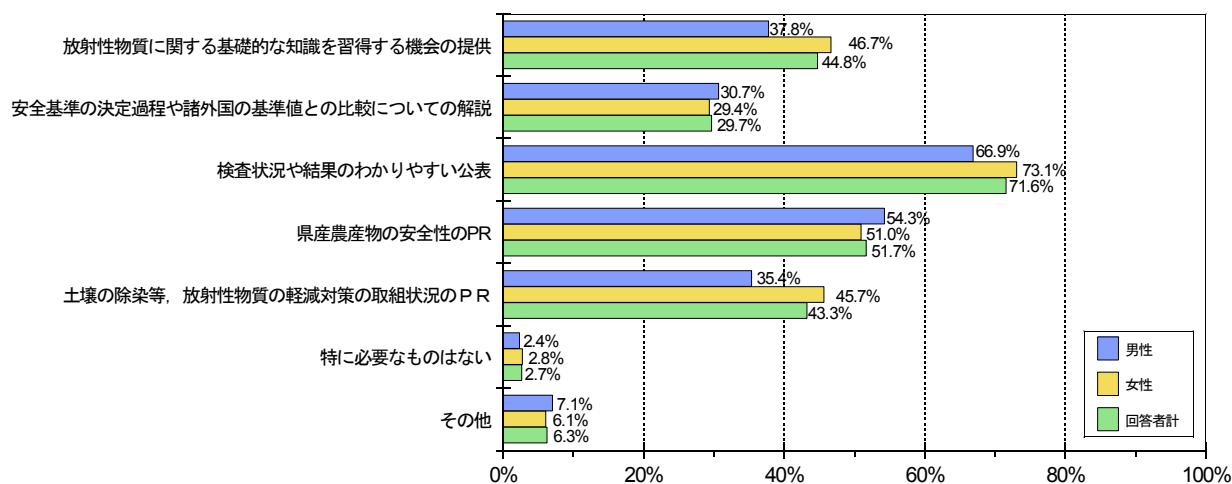


問 17 食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けて、行政の取組として必要と思うものは何ですか。（複数回答）

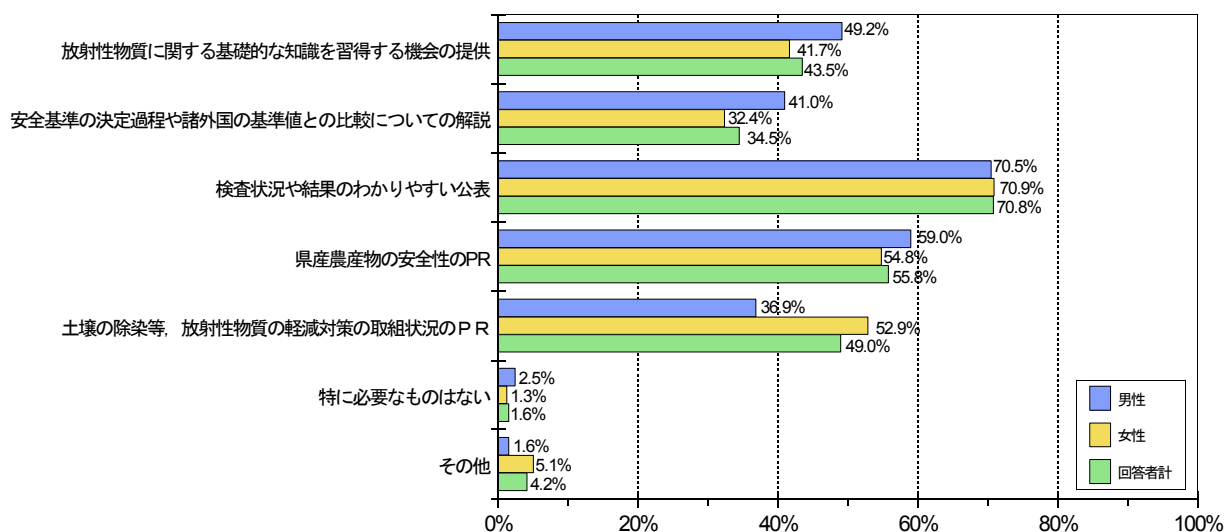
- 1 放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供
- 2 安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説
- 3 検査状況や結果のわかりやすい公表
- 4 県産農産物の安全性のPR
- 5 土壌の除染等，放射性物質の軽減対策の取組状況のPR
- 6 特に必要なものはない
- 7 その他

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取組としては、「検査状況や結果のわかりやすい公表」(71.6%)、「県産農産物の安全性のPR」(51.7%)、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」(44.8%)、「土壌の除染等，放射性物質の軽減対策の取組状況のPR」(43.3%)の順で要望が高い。

男女別では「土壌の除染等，放射性物質の軽減対策の取組状況のPR」の項目で有意差が見られ、女性の回答割合が高い。

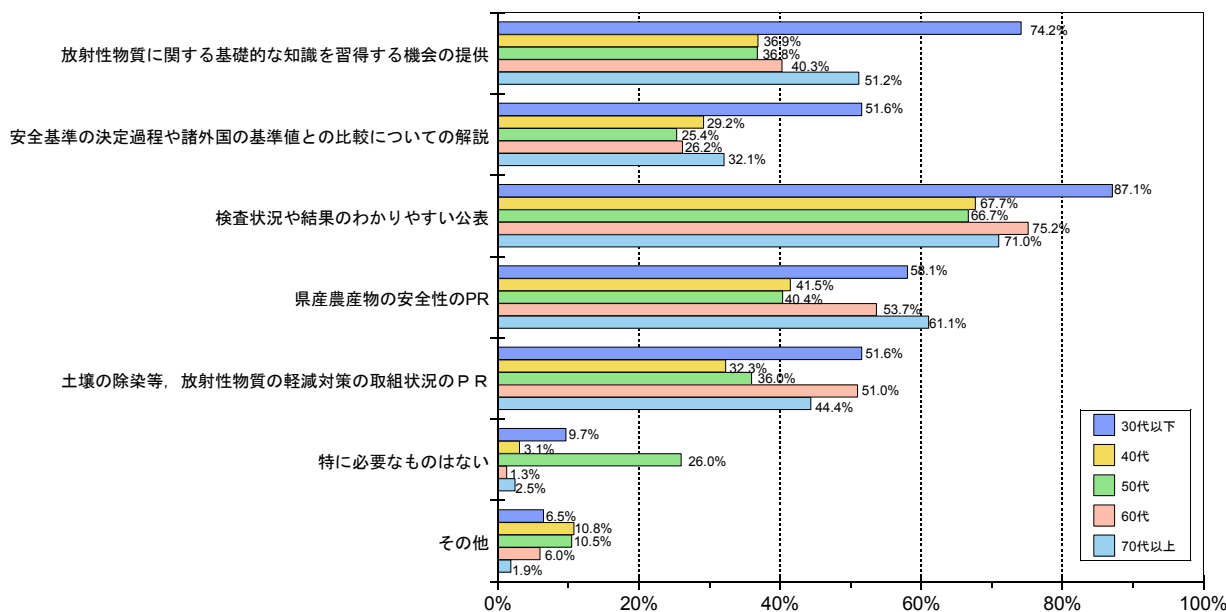


H30 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（男女別，複数回答）



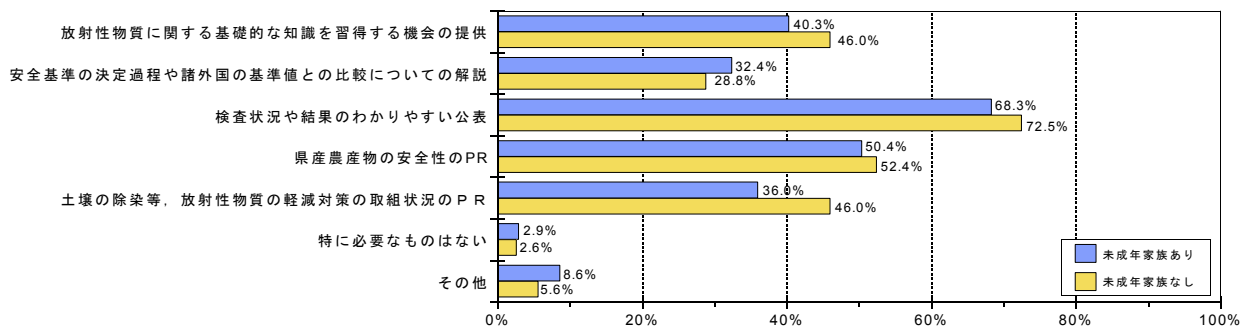
参考（H29） 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（男女別，複数回答）

年代別では、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」の項目で有意差が見られ、30代以下と70代以上の回答割合が高い。また、「県産農産物の安全性のPR」の項目では、70代以上の回答割合が高く、50代の回答割合が低い。「土壌の汚染等、放射性物質の軽減対策の取組状況のPR」の項目では、60代の回答割合が高い。「特に必要なものはない」の項目では、30代以下の回答割合が高い。



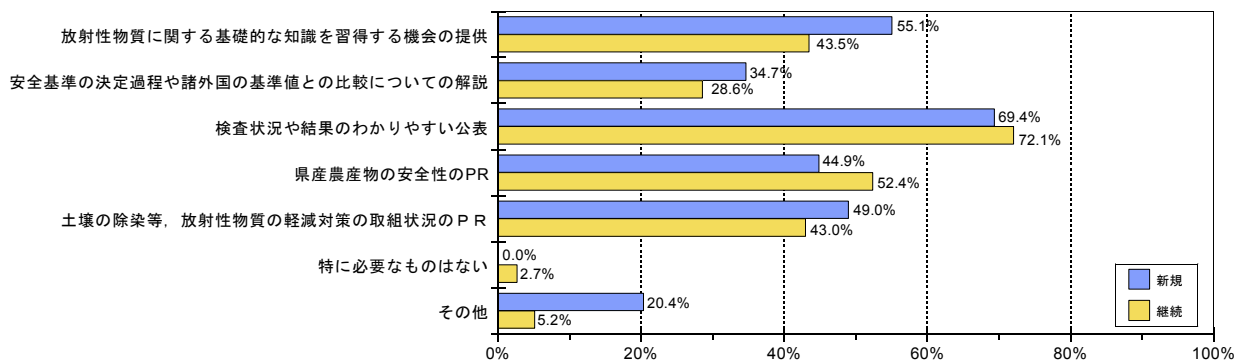
H30 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（年代別、複数回答）

未成年家族の有無別では、「土壌の除染等、放射性物質の軽減対策の取組状況のPR」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。



H30 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（未成年家族の有無別、複数回答）

新規・継続の別では、有意差は見られない。



H30 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（新規・継続の別、複数回答）

Ⅲ その他

問18 次のマークや制度を知っていますか。(単一回答) ※今年度からの新設問

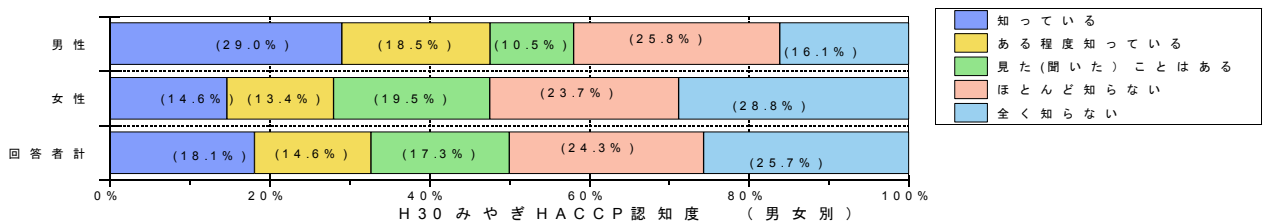
A みやぎHACCP(ハサップ)



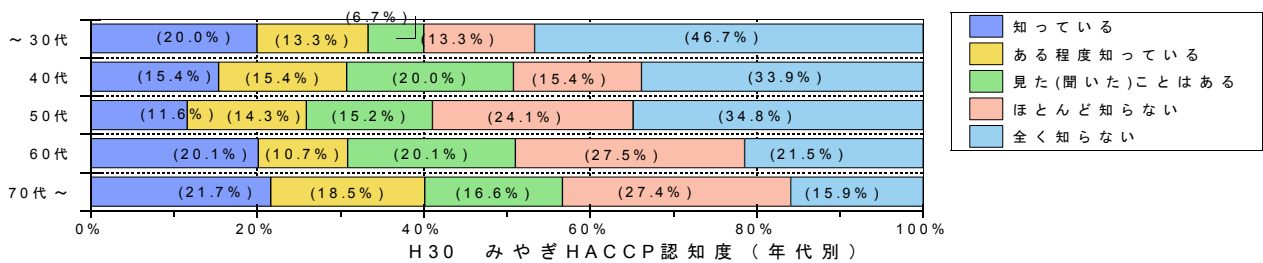
- | | |
|----------------|-------------|
| 1 知っている | 2 ある程度知っている |
| 3 見た(聞いた)ことはある | 4 ほとんど知らない |
| 5 全く知らない | |

みやぎHACCPの認知度については、「全く知らない」(25.7%)が最も高く、「ほとんど知らない」(24.3%)と合わせた回答割合は50.0%で、「知っている」(18.1%),「ある程度知っている」(14.6%)を合わせた回答割合32.7%を17.3ポイント上回った。

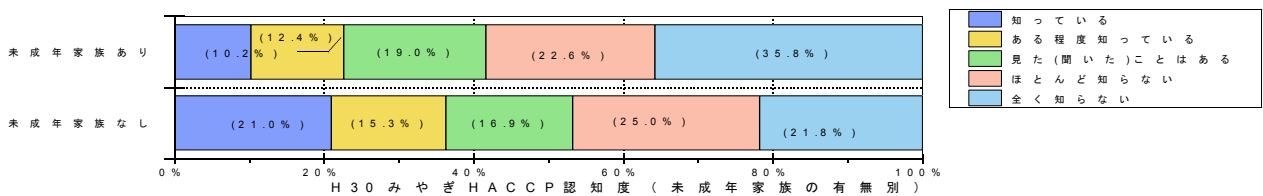
男女別では「知っている」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。また、「見た(聞いた)ことはある」、「全く知らない」の項目では、女性の回答割合が高い。



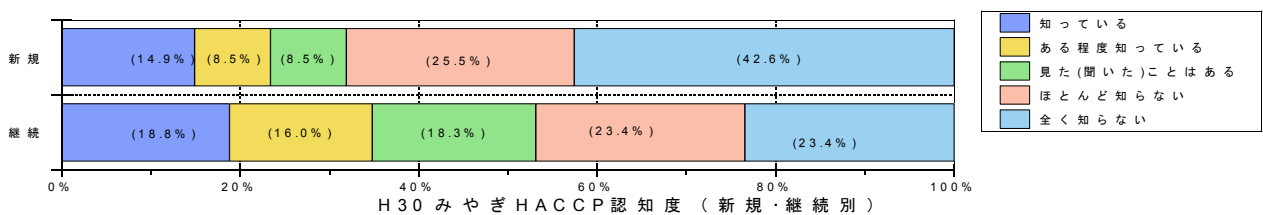
年代別では、「知っている」の項目で有意差が見られ、50代の回答割合が低い。また、「全く知らない」の項目では、30代以下の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。



未成年家族の有無別では、「知っている」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。また、「全く知らない」の項目では、「未成年家族あり」の回答割合が高い。



新規・継続の別では「全く知らない」の項目で有意差が見られ、新規モニターの回答割合が高い。



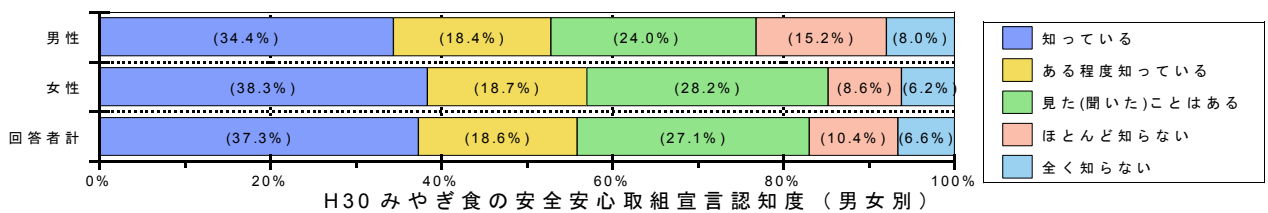
B みやぎ食の安全安心取組宣言



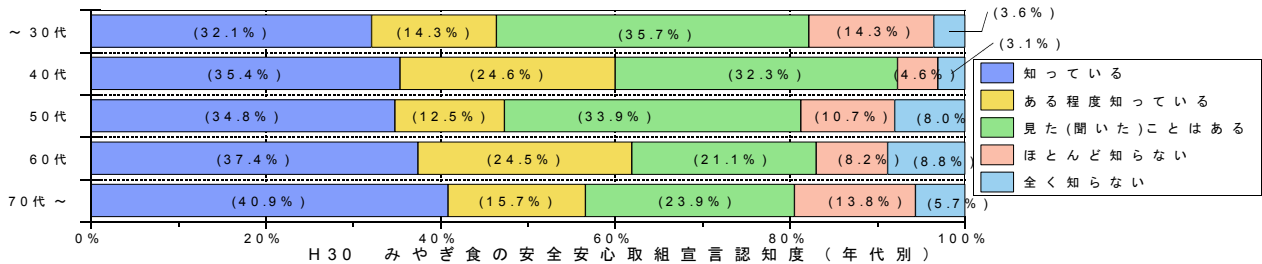
- | | |
|----------------|-------------|
| 1 知っている | 2 ある程度知っている |
| 3 見た(聞いた)ことはある | 4 ほとんど知らない |
| 5 全く知らない | |

みやぎ食の安全安心取組宣言の認知度については、「知っている」(37.3%)の回答割合が最も高く、「ある程度知っている」(18.6%)と合わせた回答割合は55.9%で、「ほとんど知らない」(10.4%)、「全く知らない」(6.6%)を合わせた回答割合17.0%を38.9ポイント上回った。

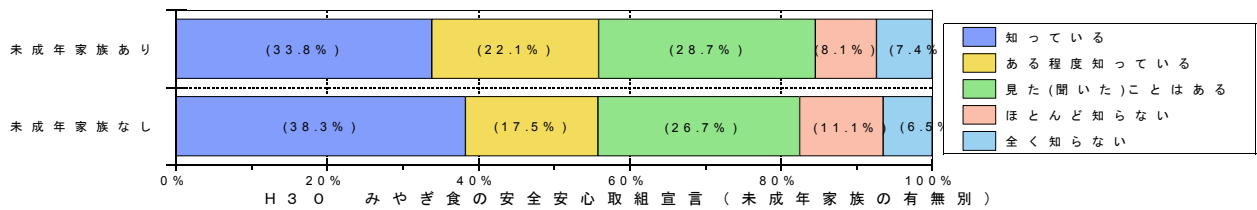
男女別では、有意差は見られない。



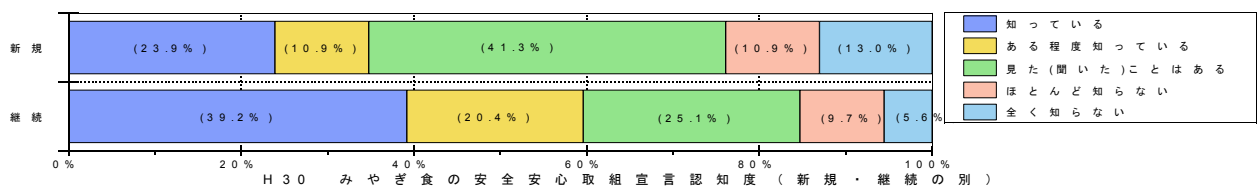
年代別では、有意差は見られない。



未成年家族の有無別では、有意差は見られない。



新規・継続の別では、「知っている」の項目で有意差が見られ、新規モニターの手答割合が低い。また、「見た(聞いた)ことはある」、「全く知らない」の項目では、新規モニターの手答割合が高い。



問 19 食の安全安心全般について、あるいは国や県の施策について、ご意見やご提言があればお書きください。

計206件の記述回答があり、その内容としては、「メディアを活用した情報提供」、「HPを見ない世代への情報提供の考え方」等、情報提供に関する意見が最も多かった。また、放射性物質については、検査体制の強化など、昨年に引き続き多くの意見が寄せられた。食の安全安心全般については、食品添加物・輸入食品・農薬に関する意見が多く見られた。(個別の内容は省略)